

AI 睡眠見守りシステム

DC900

取扱説明書



Rev.1.0.0

2023年1月

ダンボネット・システムズ株式会社

目次

1. 製品概要	4
1.1 ハードウェアの説明	4
1.2 製品仕様	6
1.3 インターフェイスの説明	7
2. 設置	9
3. NVR 構成操作	11
3.1 サインインします	11
3.2 チャンネルの状態	12
3.3 クイック構成	14
3.3.1 NVR ネットワーク構成	14
3.3.2 カメラ構成	15
3.4 ショートカット メニューの操作手順	17
3.4.1 メインメニュー	17
3.4.2 チャンネル構成	18
3.4.3 画面レイアウト	20
3.5 メイン メニューの操作手順	20
3.5.1 ネットワーク設定	21
3.5.2 日付時刻	22
3.6 システム設定の操作手順	23
3.6.1 標準設定	23
3.6.2 エンコード設定	25
3.6.3 録画バックアップ	27
4. システム構成操作	29
4.1 システム ログインと基本操作	29
4.1.1 システムがログオンして終了します	29
4.1.2 パスワードの変更	30
4.2 構成を初期化します	31
4.2.1 ネットワーク設定	31
4.2.2 設定を監視します	31
4.2.3 カメラ構成	32
4.2.4 プラットフォームの設定	33
4.2.5 サービス構成	34
4.2.6 構成の検証	35
4.3 ホーム	35
4.4 デバイス構成	37
4.4.1 カメラを追加します	38
4.4.2 カメラのビデオ画面のプレビュー	39
4.4.3 カメラ編集	40
4.4.4 カメラの削除	41
4.5 サービス構成	42
4.5.1 シングルプレイヤー安全睡眠検出	42
4.5.2 複数人安全睡眠検知	44

4.5.3	ベッドから検出します	45
4.5.4	転倒検出	46
4.6	警報ログのレポートする.....	47
4.7	設定します	49
4.7.1	一般的な設定	49
4.7.2	インストルメンテーションを構成します	54
4.7.3	ネイティブについて	56

1. 製品概要

1.1 ハードウェアの説明

DC900 多機能スマート端末は、AI 人工知能アルゴリズム、NVR ビデオアグリゲーション記録、ネットワークスイッチング、PoE 電源などを統合し、内蔵ハードディスクドライブ、マルチカメラ監視アクセス、1080P ディスプレイ出力、複数の画面分割レイアウト、ローカルビデオ監視と自動録画機能に加えて、ネットワークカメラ国際標準規格 Onvif もサポートしています。クラウドプラットフォームと組み合わせることで、マルチアクセスカメラのビデオストリーミングを遠端(コントロール端末側)で行うことができます。AI 能力を持つマザーボードは、マルチウェイリアルタイムビデオのフレーム演算を行い、画像ビデオ分析技術と人工知能(AI)アルゴリズムを使用して、特定の人物、特別な行動、特定のイベント、特定の瞬間のインテリジェントな監視を自動的に完了し、タイムリーな判断、リモートアラート、緊急制御、調査フォレンジックなどの統合機能を実現し、オンサイトネットワーク接続に基づいて、機器は、アラートデータとスクリーンショットを統計的にアップロードし、また、制御センターの機器制御をサポートし、アルゴリズムとソフトウェアのアップグレードをリモートで完了することができます。DC900 は、幼稚園、保育園、病院、高齢者施設など、一人、または、複数人の睡眠状態や、ベッドからの離床、転倒検知など、様々な AI 認識機能を実現します。

DC900 は、最先端の AI アクセラレータ(NPU)を内蔵し、様々なシナリオに対応する AI 処理の中核機能を実現する製品です。電源は 3C、CE、PSE などの国際認証を獲得し、内部電源については、PoE 出力および主要回路の電源要件を十分に満たし、広い電圧入力と幅広い保護をサポートする DC/DC 回路を内蔵しています。本体には、冷却効率の高いアルミケースを採用、ほこりや湿気の侵入を防ぐ密封構造とし、優れた冷却効果を発揮しながら、機器の寿命を延ばす高いエネルギー消費効率を実現しています。設置は、卓上スタンドと壁掛けブラケットを用意し、様々な設置環境に対応します。

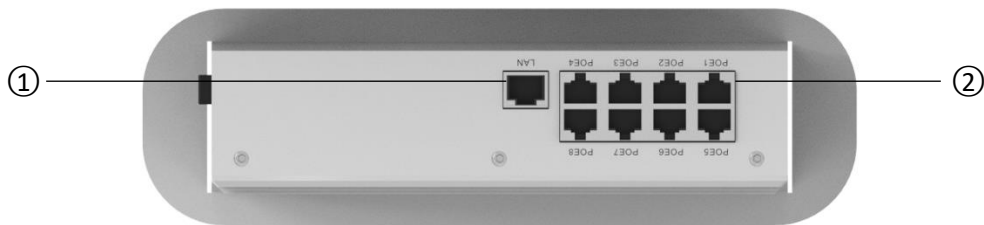


DC900 外観図

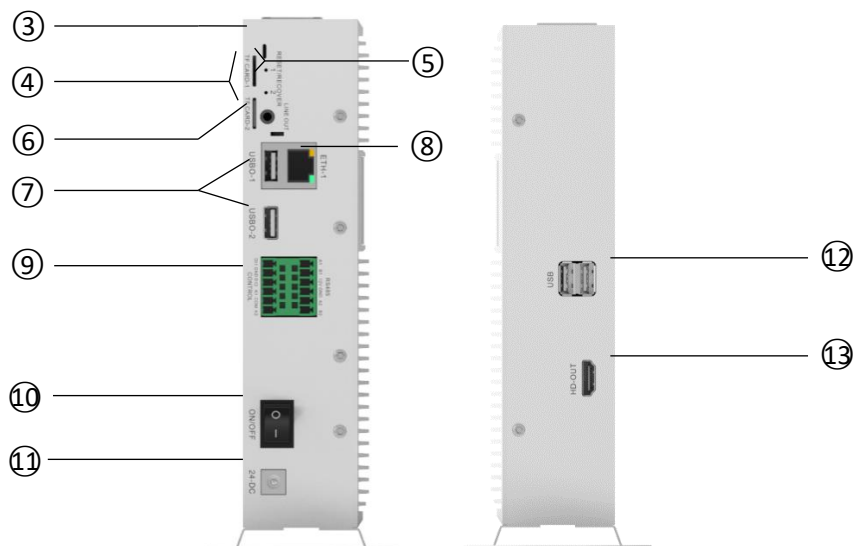
1.2 製品仕様

項目	名称	概要
サイズ	本体サイズ	180(幅)×210(高さ)×60(奥行)
	設置方法	デスクトップまたは壁掛け
動作環境	温度範囲	-10°C~+55°C
	湿度範囲	10%~90% 相対湿度
ハードウェア構成	プロセッサ	8 コア ARM CPU 統合 NPU (AI アクセラレータ)
	メモリ	6 GB DDR4 追加最大 32GB×4
	EMMC	標準 24GB 32GB/64GB に交換可能
	デコード	4~8 チャンネル 1080P ビデオ @30fps
	ストレージ	1TB
	NVR	4~8 チャンネル ビデオ リアルタイム確認、ビデオ エクスポート、プラットフォーム管理
	互換性	Onvif
システムインターフェイス	ビデオインターフェイス	HDMI×1,1080P/4K 対応
	ネットワークインターフェイス	1000BASE-T ×1 100BASE-T(PoE サポート) ×8
	USB インターフェイス	USB ホスト×1,OTG×1,NVR×2
	フラッシュカードスロット	最大 256 GB の拡張カードスロット×2
	オーディオインターフェイス	1 系統(出力 5W)
	拡張インターフェイス: フェニックス端子ソケット	12V 電源付きデュアル RS845
		制御用入力ポート DI ポート ×2 High/Low レベル制御 制御用出力ポート×2 接点出力 30V@500mA
	MIPI インターフェイス	40 ピン×1, タッチセンサー付き I2C
その他の構成	コントロールボタン	要件に応じて選択可能
	LED インジケータ	メッシュ LED、電源インジケータ
	バーンインボタン	Recover,リセット
	電源アダプタ	入力 AC 110V@50Hz、出力 DC 24V/3A

1.3 インターフェイスの説明



製品の上面図



製品側面図

- ① 1000BASE-T ネットワーク インターフェイス ×1
- ② 100BASE-T PoE ネットワーク インターフェイス ×8
- ③ CPU ステータス LED
- ④ フラッシュカードスロット ×2
- ⑤ Reset/Recover スイッチ
- ⑥ オーディオ・ライン出力インターフェイス
- ⑦ USB 2.0 インターフェイス ×2
- ⑧ AI マザーボード ネットワーク インターフェイス

- ⑨ 拡張機能インターフェイス
- ⑩ 電源スイッチ
- ⑪ DC 電源ソケット(24V/3A)
- ⑫ NVR USB コネクタ ×2
- ⑬ HDMI インターフェイス ×1

拡張インターフェイス仕様

12PIN のフェニックス端子ソケットは、2 つの RS485 バス通信(電源付き)、2 つのセンサー(スイッチ量)入力、2 つの制御出力(リレーノーマルオープン)など、IoT 拡張に使用できます(配線リファレンスハウジングシルクスクリーン)

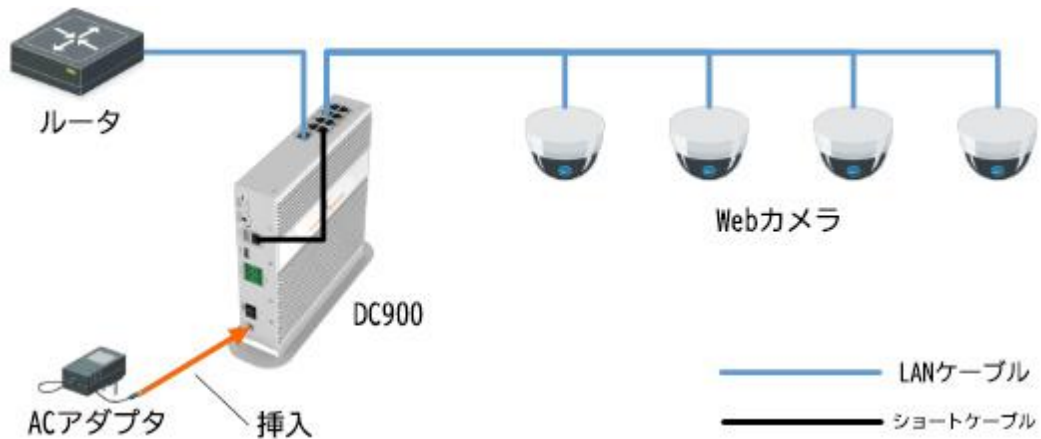
A1+	B1-	VCC	GND	A2+	B2-
D1	GND	D2	K1A	COM	K1B

備考: D1, D2 はハイレベルとローレベルの両方でトリガ可能(ハイレベル制限 5V)、K1A、K1B はリレーノーマルオープンノードです。

上記のポートにより、パトライト制御や、ゲート制御、センサ(スイッチ量または RS485 バス)へのアクセスなどを拡張することができます。

2. 設置

製品接続図:



製品のインストール手順の説明:

1. デバイスの設置場所を特定し、適切に設置します。
2. 電源スイッチ⑩がオフであることを確認し、電源アダプタを使用して電源に接続し、DC 側はデバイスの DC 入力ポートに接続します⑪。
3. AI マザーボード ネットワーク インターフェイスと 100BASE-T ポートを短いLANケーブルで接続します ⑧②(8 つのインターフェイスのうちいずれか)。
4. LANケーブルにて 1000BASE-T インターフェイス①とローカルエリアネットワークを接続します。
5. ネットワークカメラを、LAN ケーブルで 100BASE-T インターフェイス②に接続します。
6. NVR を設定するには、USB インターフェイスにマウスを接続し、

- ②HDMI インターフェイスをディスプレイに接続し、③NVR 設定の「操作」に記されている手順に従ってください。
7. すべての接続が完了したら、電源スイッチをオンにします。システムは⑩自動的に動作を開始します。システムの動作中は、インターフェイスケーブルのホットスワップを避けてください。
 8. AI マザーボードの動作パラメータを設定し、パソコンを 100BASE-T のいずれかのインターフェイスに接続し、パソコン側の IP アドレスを 192.168.1.x セグメントに設定し、ブラウザを使用して、端末 IP アドレスを入力します（デフォルトは 192.168.1.180 に設定され、構成が変更された場合は、変更された構成アドレスを入力する必要があります）このドキュメントの「システム構成」の「操作」セクションで説明します。

3. NVR 構成操作

NVR 構成では、DC900 を HDMI ケーブルで接続し、NVR USB インターフェイスを介して USB マウスに接続する必要があります。

DC900 の NVR の主な機能は、カメラへのアクセス、検出分析のための AI システムのためのカメラビデオストリームの提供、および保存されたカメラビデオの記録です。

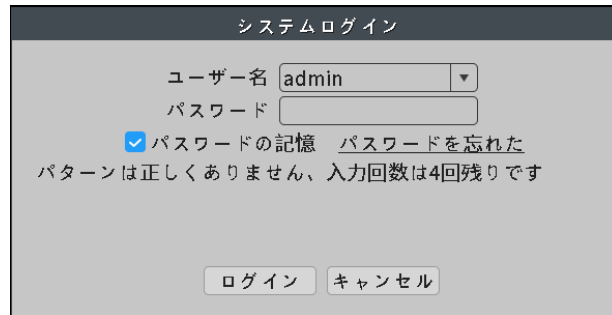
3.1 サインインします

NVR 構成を行うには、NVR システムにログインする必要があります。

工場出荷時は、「admin」が設定されています(パスワードは空です)。ユーザー admin は、スーパーユーザー権限ユーザーとなります。「admin」はパスワードの変更はできますが、アクセス許可の変更はできません。ログイン画面は以下のようになります。



パスワード保護: 間違ったパスワードを入力すると、「パスワードが間違っていて、n 回残っている」というメッセージが表示され、5 回連続して間違えるとアカウントがロックされます (システムの再起動または 30 分後に自動的にロック解除されます)。

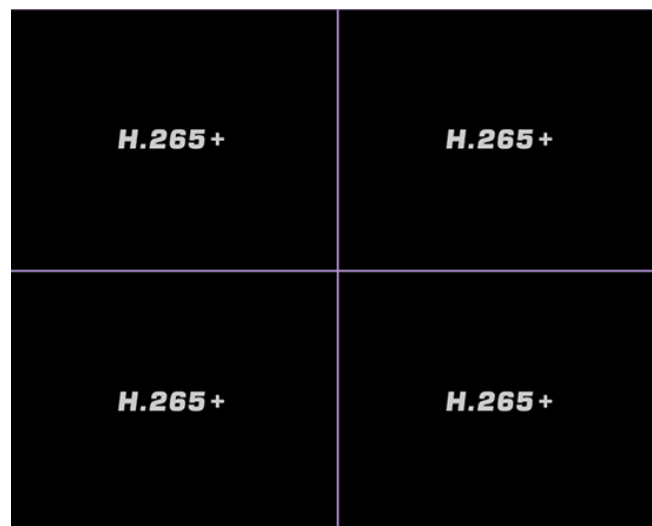


ユーザーが初めてログインした場合には、ユーザー管理でユーザー名とパスワードを直ちに変更し、パスワードを忘れた場合にログイン インターフェイスでパスワードを取得できるようにセキュリティの質問を設定してください。

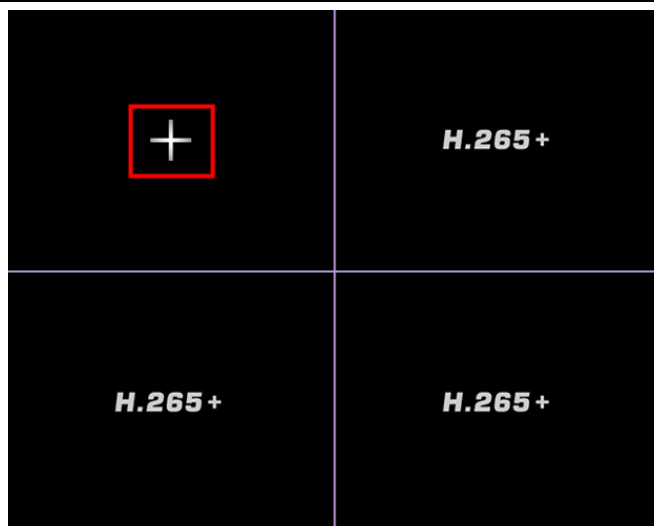
3.2 チャンネルの状態

NVR システムにログインすると、プレビューウィンドウのプロンプト情報により、デジタルチャンネルの状態をすばやく判断できます。

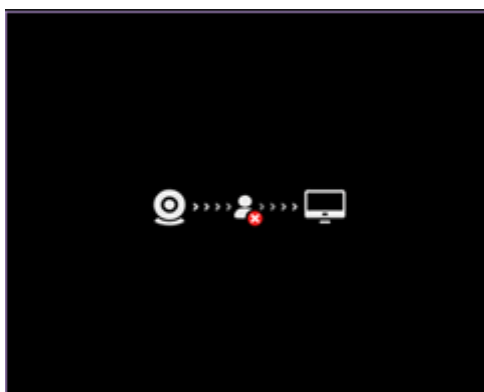
チャンネル ログは、デジタル チャンネルが未構成の状態にある場合に表示されます。



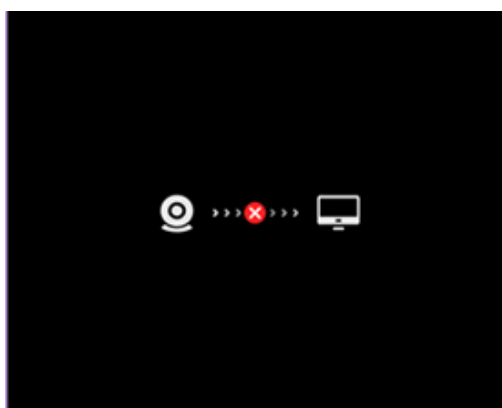
マウスカーソルをチャンネル ログに合わせると、チャンネル ログは ”+” になり、[+] をクリックすることでデジタル チャンネル構成ページに移動し、IP デバイスを追加することができます。



追加された IP チャンネル、ユーザー名、またはパスワードが正しくない場合、ユーザー名パスワード エラー アイコンが表示されます。



IP チャンネルが正常にプロットされると、ライブ プレビュー ビデオが表示され、現在のカメラが切断されると、フロントエンド ドロップ アイコンが表示されます。

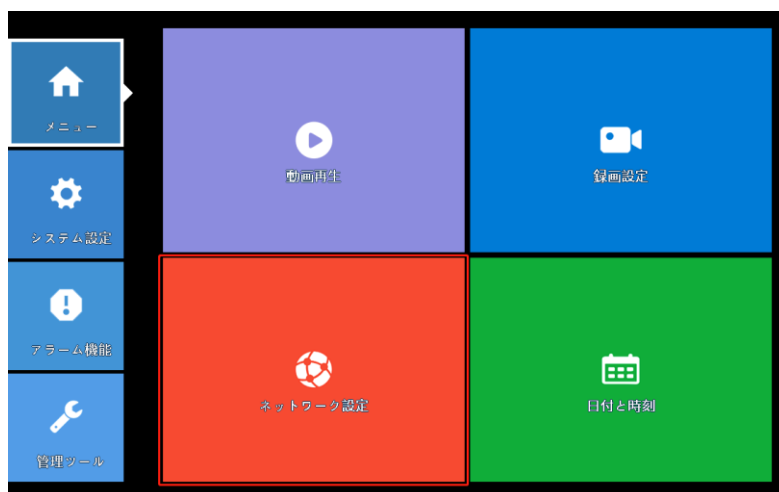


3.3 クイック構成

端末を初めて使用するときは、NVR ネットワークを設定し、カメラにアクセスした後、カメラ情報を構成する必要があります。

3.3.1 NVR ネットワーク構成

プレビュー ウィンドウを右クリックすると、デスクトップのショートカット メニューが表示されます。メインメニュー -ネットワーク設定を選択し、NVR システムのネットワーク情報を設定します。



ネットワーク設定インターフェイスでは、実際のユーザシナリオに割り当てられた NVR IP 情報に基づいて、NVR システムネットワークを構成します。

【IP アドレスの自動取得】この機能を有効にすると、ローカルエリアネットワーク内のルータは自動的に IP アドレスをレコーダーに割り当てます。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを手動で設定する必要はありません。※IP アドレスの自動取得はオフにすることをお勧めします。

【IP アドレス】ビデオレコーダーの IP アドレスを設定し、IP アドレスはローカル エリア ネットワークと同じネットワーク セグメントである必要があります。

【サブネット マスク】レコーダーのサブネット マスクを設定します。

【デフォルト ゲートウェイ】レコーダーのデフォルト ゲートウェイを設定します。

【DNS 設定】DNS サーバーを設定します。

メディア ポート番号は 1-65535 から選択できます。既に占有されているポートは設定できません。デフォルトは 34567 です。

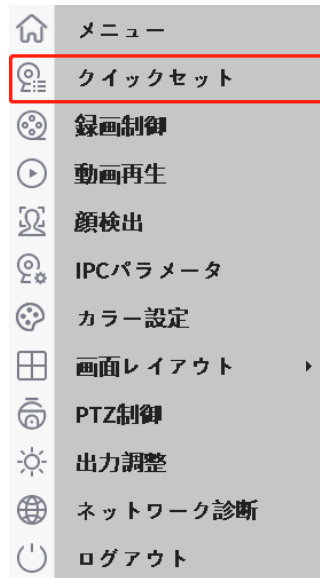
HTTP ポート番号は 1 ~65535 から選択できます。既に占有されているポートは設定できません。デフォルトは 80 です。



3.3.2 カメラ構成

プレビュー ウィンドウを右クリックすると、デスクトップのショートカット メニューが表示されます。チャンネル構成を選択し、アクセス端末のカメラ情報を設

定めます。



[検索] ボタンをクリックすると、NVR システムは PoE ネットワーク インターフェイスに接続されているカメラ情報を自動的に検索し、インターフェイス ウィンドウに表示します。

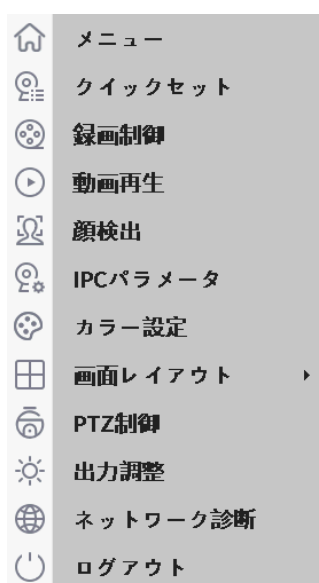


デバイスの一覧でカメラを選択すると、カメラ IP 情報を表示します。また、構成変更することができます。

3.4 ショートカット メニューの操作手順

プレビュー ウィンドウを右クリックすると、デスクトップのショートカット メニューが表示されます。

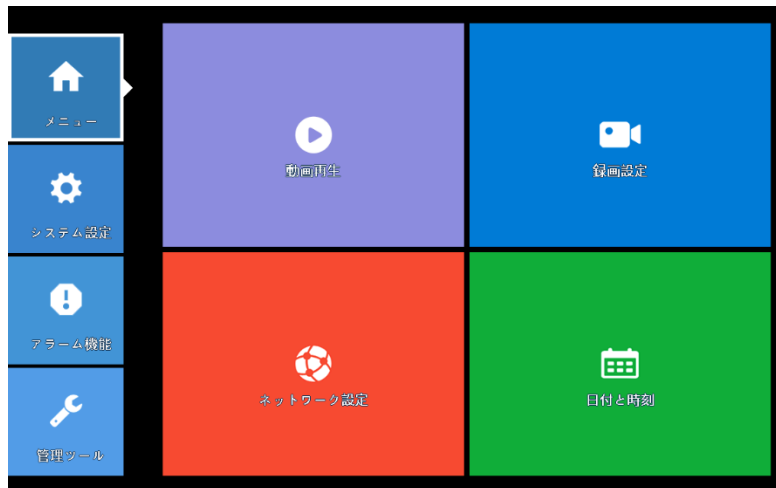
ショートカット メニュー機能には、メイン メニュー、チャンネル構成、録画制御、録画再生、顔検出、IPC パラメータ、画像色、画面レイアウト、ジンバル コントロール、出力調整、ネットワーク検出、シャットダウン システムなどの機能が含まれます。



以下では、DC900 使用中に使用できる構成機能について説明します。

3.4.1 メインメニュー

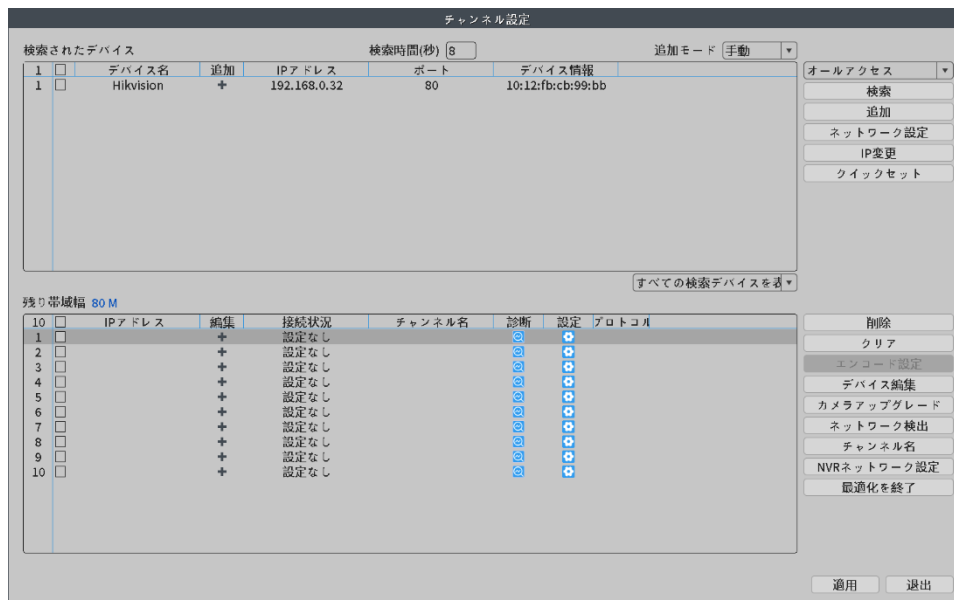
メインメニューには、ビデオレコーダーの各機能パラメータの構成が含まれていますので、詳細は「[3.5 メインメニューの操作手順](#)」と「[3.6 システム設定操作手順](#)」をお読みください。



3.4.2 チャネル構成

NVR にアクセスするカメラを構成するデジタル チャネルを構成します。

DC900 AI 端末に内蔵された NVR は 8 チャネルシステムであり、実際には 4 ウェイカメラビデオへのアクセスを使用して人工知能検出と認識を並列に行います。



【検索済みデバイス】検索したデバイスを表示します。

【検索時間(s)】検索時間を設定します。最小値を 5 未満にすることはできません。

【追加モード】3 種類に分ける:手動、自動、自動、フロントエンド IP は変更されません。

【検索】検索ボタンをクリックすると、ビデオレコーダーは、同じローカルエリアネットワーク内でオンラインのリモートデバイスを検索し、検索時に、フルネットコム、NETIP、ONVIF の 3 つのプロトコルのいずれかで検索することができます。

【追加】 検索ディレクトリ バーの [リモート デバイス] をオンにして [追加] ボタンをクリックしてビデオ レコーダーのチャンネルに追加するか、検索したデバイスをダブルクリックして追加します。

【ネットワーク設定】検索した IP アドレスセグメントとビデオレコーダーのアドレスセグメントが異なる場合は、ネットワーク設定機能を介してリモートデバイスの IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイなどの設定を変更します。

【クイックセット】ビデオレコーダーの各チャンネルに検索表示の順番で順次追加します。1 つずつ追加する必要はありません。

IP アドレスの一括変更: 検索済みデバイスの一覧から IP アドレスを変更するデバイスを選択し、これらのフロントエンドの IP アドレス一括で変更します。

【検索デバイスの表示】 既定では、[すべての検索デバイスを表示] が選択され、検索デバイスが追加されていないものを表示するように選択できます。

【残りの帯域幅】 デバイスの残りの帯域幅を表示します。

【削除】 デバイスの種類の前にあるチェックボックスをオンにし、[削除] ボタンをクリックして、選択したリモート デバイスを削除します。

【クリア】 追加したすべてのリモート デバイスを削除します。

【エンコード設定】リモート機器のエンコードパラメータを設定します。

【デバイス編集】 デバイスの種類、プロトコル、リモート チャネル番号、ユーザー名、パスワード、IP アドレスなど、フロントエンド デバイスのパラメータを変更します。

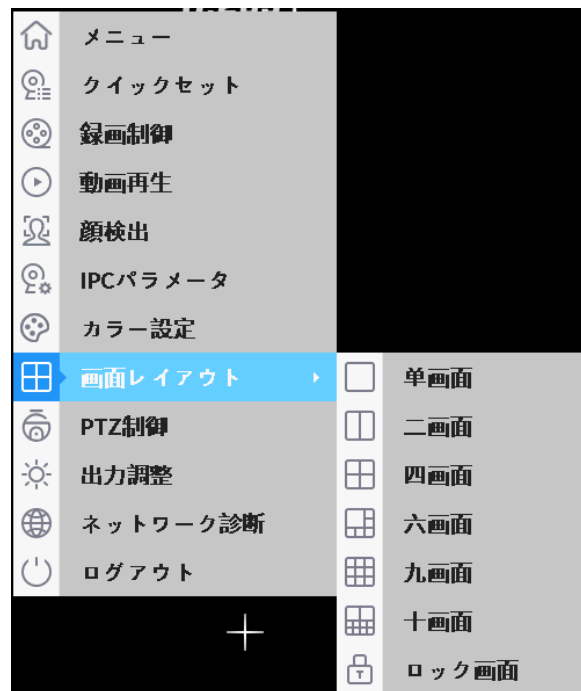
チャンネル名: チャンネル名を変更します。

【NVR ネットワーク設定】IP、DNS、メディア ポート、HTTP ポートなど、NVR のネットワーク パラメータを変更します。

【アダプティブオフ】フロントエンド IPC のネットワークアダプティブ機能をオフにします。

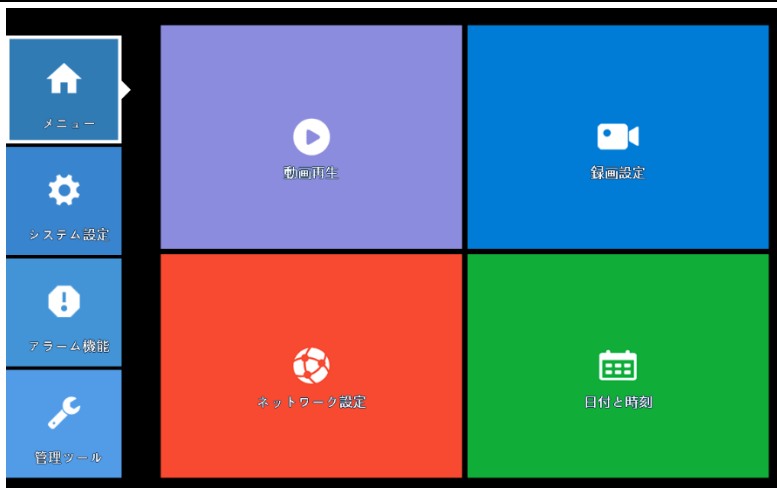
3.4.3 画面レイアウト

画面レイアウトは、プレビュー画面の画面分割数を設定します。デフォルトは4画面です。



3.5 メインメニューの操作手順

メイン素材リスト機能には、録画再生、録画設定、ネットワーク設定、日時などがあります。



以下では、DC900 AI 端末の使用中に使用できる構成機能について説明します。

3.5.1 ネットワーク設定

工場出荷時にネットワーク設定が完了していますので、通常は調整する必要はありません。

ネットワーク設定には、デバイスの IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイ、DNS、メディア ポート、HTTP ポート、ネットワーク トランスポート、ネットワーク暗号化などの構成が含まれます。



ネットワーク設定	
NIC	<input checked="" type="checkbox"/> 有線NIC <input type="checkbox"/> DHCP
IPアドレス	192 . 168 . 0 . 100
サブネットマスク	255 . 255 . 255 . 0
デフォルトゲートウェイ	192 . 168 . 0 . 1
プライマリDNS	192 . 168 . 0 . 1
オルタネートDNS	8 . 8 . 8 . 8
メディアポート	34567
HTTPポート	<input checked="" type="checkbox"/> 80
HSダウンロード	<input type="checkbox"/>
ネットワーク伝送方式	画質優先
ネットワーク暗号化	制限なし
ネットワークサービス	GB 28181

【IP アドレスの自動取得】この機能を有効にすると、ローカルエリアネットワーク内のルータは自動的に IP アドレスをレコーダーに割り当てます。IP アドレ

ス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを手動で設定する必要はありません。デフォルトでは、IP アドレスの自動取得はオフになっています。

[IP アドレス] ビデオ レコーダーの IP アドレスを設定し、IP アドレスはローカル エリア ネットワークと同じネットワーク セグメントである必要があります。

[サブネットマスク] レコーダーのサブネット マスクを設定します。

[デフォルトゲートウェイ] レコーダーのデフォルト ゲートウェイを設定します。
。

[プライマリ DNS/オルタネート DNS] DNS サーバーを設定します。

[メディアポート]は 1～65535 から選択できます。既に占有されているポートは設定できません。デフォルトは 34567 です。

[HTTP ポート]は 1～65535 から選択できます。既に占有されているポートは設定できません。デフォルトは 80 です。

3.5.2 日付時刻

録画のタイム ゾーン、システム時刻、日付などを設定します。



[タイムゾーン] システム時刻のタイムゾーンを設定します。

[システム時間] ビデオレコーダーのシステム時刻を設定する。

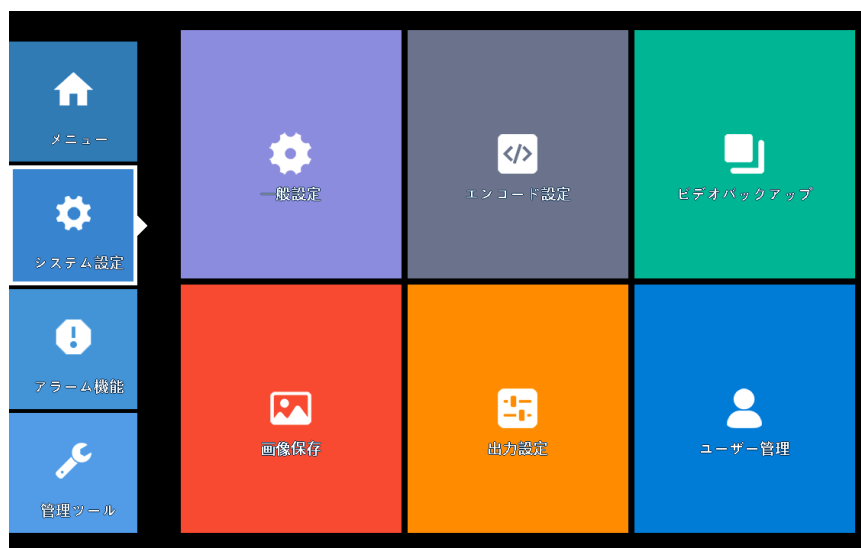
[日付形式、日付セパレータ] システム時刻を表示する形式を設定します。

[時間形式] 時間表示形式を 12 時間または 24 時間から選択します。

[夏時間] 夏時間前のチェックボックスをオンにし、夏時間ボタンをクリックすると、週または日付で夏時間の開始時刻と終了時刻を設定できます。

3.6 システム設定の操作手順

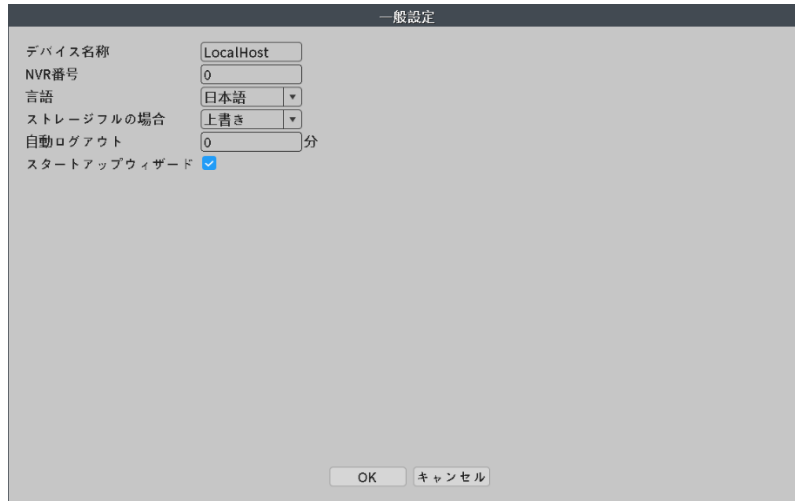
システム設定メニューには、標準設定、エンコード設定、録画バックアップ、画像ストレージ、出力モード、ユーザー管理、RS485 デバイス、シリアル設定などがあります。



以下では、DC900 の使用中に使用できる構成機能について説明します。

3.6.1 標準設定

一般的な設定には、タイムゾーン、システム時刻、日付形式、日付区切り記号、時刻形式、言語選択、ネイティブ番号、ビデオ形式、スタンバイ時間、デバイス名などがあります。



【デバイス名称】ビデオレコーダーの名称を設定して区別しやすくします。

【言語】日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、英語、ペルシャ語/イ語、フィンランド語、フランス語、ギリシャ語、ハンガリー語、イタリア語、ドイツ語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、タイ語、トルコ語、ベトナム語、ロマージャ語、ブラジル語、インドネシア語、スウェーデン語、アラビア語、ブルガリア語、チェコ語、ヘブライ語など、28カ国語がサポートされています。

【ビデオ方式】ドロップダウンメニューにはPAL,NTSCの2種類の方式が選択可能です。ビデオレコーダーとフロントエンドカメラの仕様を一致させる必要があります。一致していないと、画面がデコードできなかつたり、音声異常などの障害が発生する可能性があります。

【ストレージフルの場合】ドロップダウンメニューをクリックして停止を選択し、ビデオレコーダーのストレージデバイスがいっぱいになると、録画を停止します。

上書きを選択すると、ストレージ ディスク デバイスがいっぱいになった場合、録画が続行され、最も古い録画ファイルから上書きされます。

【自動ログアウト】メニュー待機時間 0～60 の範囲で設定します。待機時間「0」とすると待機時間を無制限とすることができます。

3.6.2 エンコード設定

エンコード設定機能は、接続モードが単一接続のチャンネルに対してのみ有効です。未接続、ユーザー名またはパスワードエラー、未構成、オンラインおよび部分的な ONVIF 接続のないチャンネルは無効です。

インターフェイスの左側は、各チャンネルのマスターコードストリームを独立して設定し、右側は各チャンネルのサブコードストリームを設定します。デュアルコードストリームは、既存のネットワークボトルネックの下で画質と伝送品質を兼ね備えており、ネットワークボトルネックを回避することができます。また、ネットワーク帯域幅に応じてコードストリームフォーマットを柔軟に選択することができ、ローカル HD ストレージを実現できると同時に、バックエンドの低コードストリームネットワーク伝送ができます。

サブコードストリームは、主にネットワーク環境が貧弱な場合のマルチチャンネルリアルタイム監視、携帯電話の監視などに使用されます。

チャンネル: ドロップダウンメニューをクリックして、設定するチャンネル番号を選択します。

[符号化モード] 標準 H.264MP、標準 H.265MP。

[解像度] ドロップダウンメニューをクリックして表示される解像度を選択し、5M/4M/3M/1080P/720P/960H など、さまざまな解像度から選択でき

ます。

【フレームレート】ドロップダウンメニューをクリックすると、プレビュー時のフレームレート、P 方式 1-25 フレーム/秒オプション、N フレーム 1-30 フレーム/秒オプションを選択できます。

【コードストリーム制御】 限定コードストリームと可変コードストリームの 2 種類のコードストリームがあります。可変コードストリームでは、画質は 6 つのオプションがあり、制限コードストリームの下では、現在のネットワーク環境により適したコードストリーム値を指定することができます。

【画質】 コード フロー制御で可変コード フローを選択する場合、画質はオプションです。画質が高いほど、コード ストリーム値のサイズはシーンの変化に応じて変化し、モーション シーンのコード ストリーム値は静止シーンよりも大きくなり、シーンの複雑なコード ストリーム値は単純なシーンのコード ストリーム値よりも大きくなります。

【コード ストリーム値】 コード ストリーム制御で限定コード ストリームを選択する場合、コード ストリーム値は省略可能です。修飾コードストリームでは、シーンに変化が生じるかどうかにかかわらず、実際のコード ストリーム値は設定値を上下に変動し、急激な変化はありません。

【フレーム間隔】 キーフレームの間隔時間、2-12 オプション、キーフレーム間隔が小さいほど、コード ストリーム値が大きいほど、画質が向上します。

【オーディオ/ビデオ】 オーディオチェックは、オーディオ機能を可能にし、プレビュー画面でオーディオフラグをクリックしてオーディオリスニングを行うことができ、サブコードストリームは、サブコードストリームプレビュー画面を介してチェックすることができます。

【スマートエンコード】 H264+、H265+、H265AI などのインテリジェントなコーディングモードを選択します。

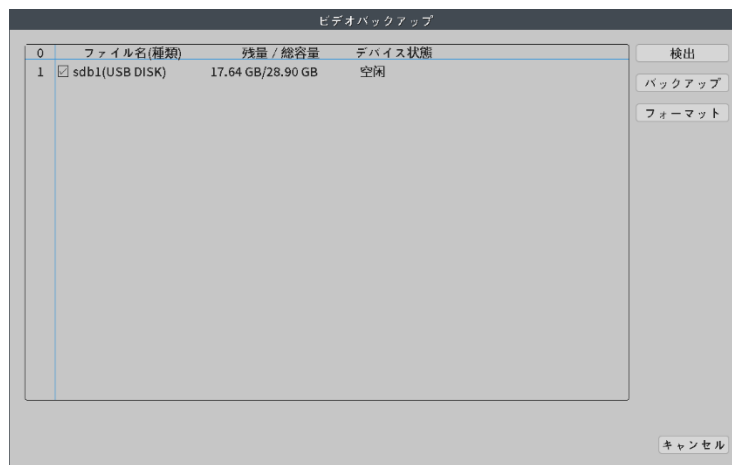
注: エンコード設定の各チャンネルは、各チャンネルが接続されているリモートデバイスのエンコードからエンコード パラメータを表示します。

3.6.3 録画バックアップ

録画バックアップ機能を使用すると、ユーザーはビデオ レコーダーのハード ディスクから録画ファイルを外部 USB ドライブ、モバイル ハード ディスク、その他のストレージ デバイスにバックアップできます。

注: ファイルをバックアップする前に、ストレージ デバイスに十分な記憶域があることを確認してください。

バックアップが終了すると、ストレージ デバイスにコピーされたファイルは個別に再生できます。



【検出】レコーダーの USB コネクタに接続されたストレージデバイスを検出し、USB ドライブ、モバイルハードドライブなどとすることができます。

【バックアップ】検出されたストレージ デバイスを選択し、種類、チャンネル、時間などの属性に基づいてバックアップする必要がある録画ファイルを選択します。

【タイプ】は、すべてのビデオ、外部アラームビデオ、ビデオ検出ビデオ、すべてのアラームビデオ、手動および通常のビデオを分類し、スクリーニングすることができます。

【チャンネル】ドロップダウン メニューでは、録画ファイルをバックアップするチャンネル番号を選択します。

【開始/終了時刻】録画ファイルの開始時刻と終了時刻を確認します。

【追加】開始時刻と終了時刻を選択した後に「追加」ボタンをクリックすると、検索結果の録画ファイル情報が結果欄に表示されます。

【空にする】結果欄に表示されるファイル情報を空にします。

【バックアップ形式】ドロップダウンメニューをクリックしてバックアップファイルの形式を選択し、H26X、AVI、およびMP4から選択します。

※H264形式のファイルを再生するには、専用のプレーヤーが必要です。

【開始/停止】バックアップが必要なファイルとバックアップ形式を選択した後、【バックアップの開始】をクリックしてバックアップを開始し、【停止】をクリックして停止します。

※バックアップ時に、このページを終了して追加機能を実行することができません。

【ワイプ】選択した外部ストレージデバイスをフォーマットします。

※ストレージデバイスをフォーマットすると、フォーマット前のすべてのファイルが失われます。

【停止】録画ファイルのバックアップを停止します。

4. システム構成操作

DC900 は、ネットワークを介してログインして構成する必要があります。

端末システムを構成するには、端末とコンピュータをネットワークケーブルで接続し、ブラウザから端末にアクセスする必要があります。端末と同じネットワーク セグメント内に構成する必要があります。

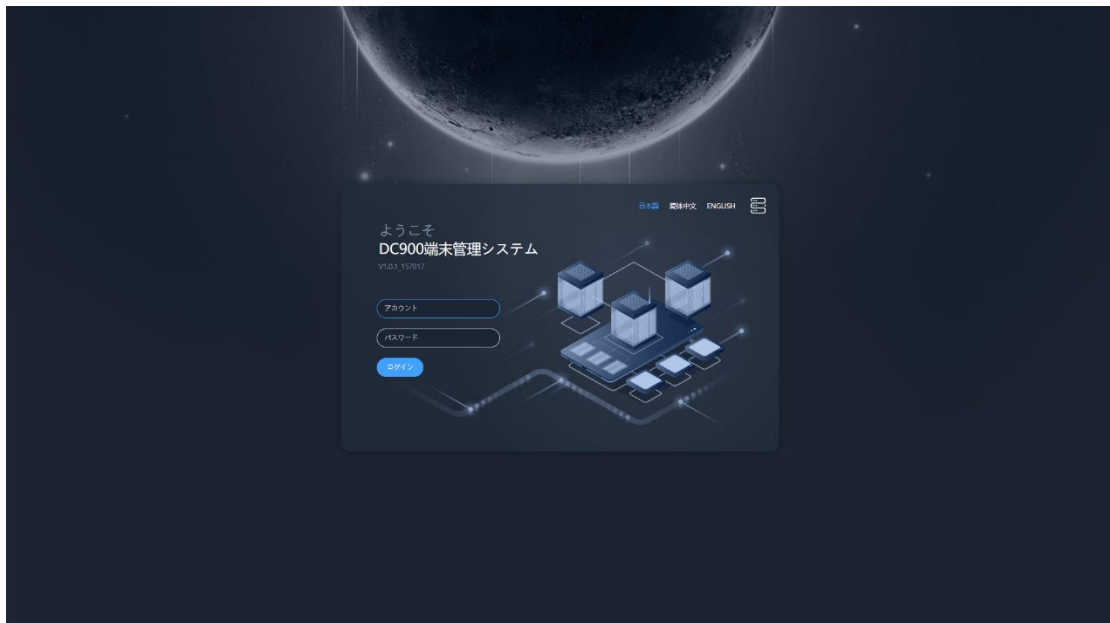
4.1 システム ログインと基本操作

4.1.1 システムがログオンして終了します

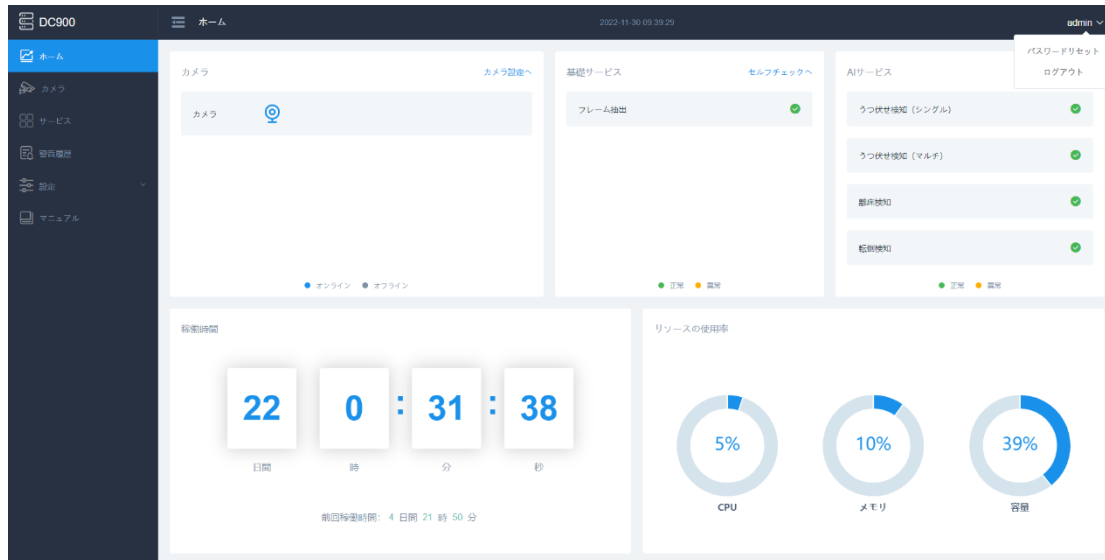
ブラウザに DC900 の IP アドレスを入力すると、次の図のように端末ソフトウェアログインのフロントページを開くことができます。

デフォルトの言語は日本語で、ログインする前に中国語または英語に切り替えることができます。

ユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックして、ターミナルソフトウェアシステムにログインします。



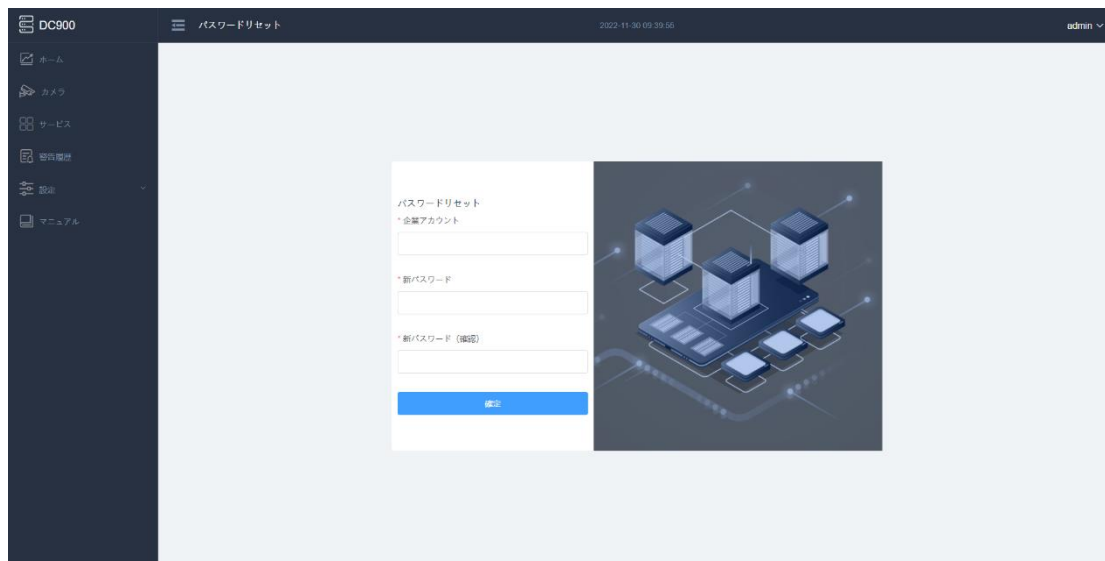
ログイン後、ユーザーは任意のページで右上のユーザーID をクリックすること、パスワードの変更とログインエントリの終了をポップアップ表示させることができます。



「システムを終了」をクリックすると、ターミナルソフトウェアからログアウトします。

4.1.2 パスワードの変更

[パスワードのリセット] をタップすると、ユーザーのパスワードを変更できます。



4.2 構成を初期化します

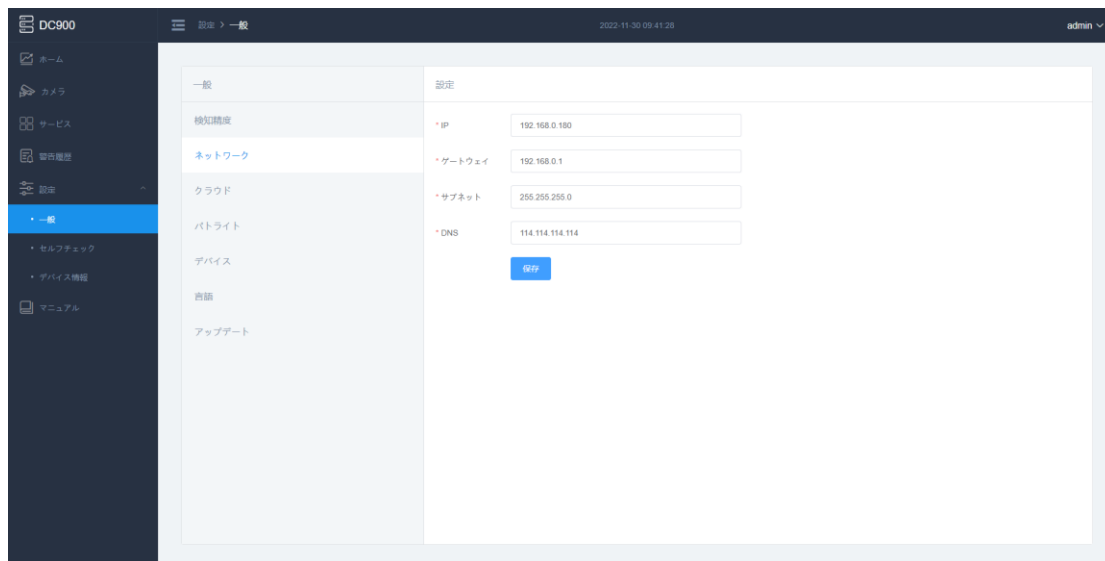
ターミナル ソフトウェアを初めて使用する場合は、次の順序で構成操作を初期化することをお勧めします。

4.2.1 ネットワーク設定

[設定 - ユニバーサル設定 - ネットワーク構成] ページに移動し、ネイティブ IP、ゲートウェイ、サブネット マスク、および DNS サーバーを設定します。

ユーザーは、ネットワーク管理者から事前に割り当てられたデバイス ネットワーク情報に基づいて構成する必要があります。

※ネットワーク構成を変更すると、デバイスは自動的に再起動します。再起動後は設定した IP アドレスを使用してアクセスします。

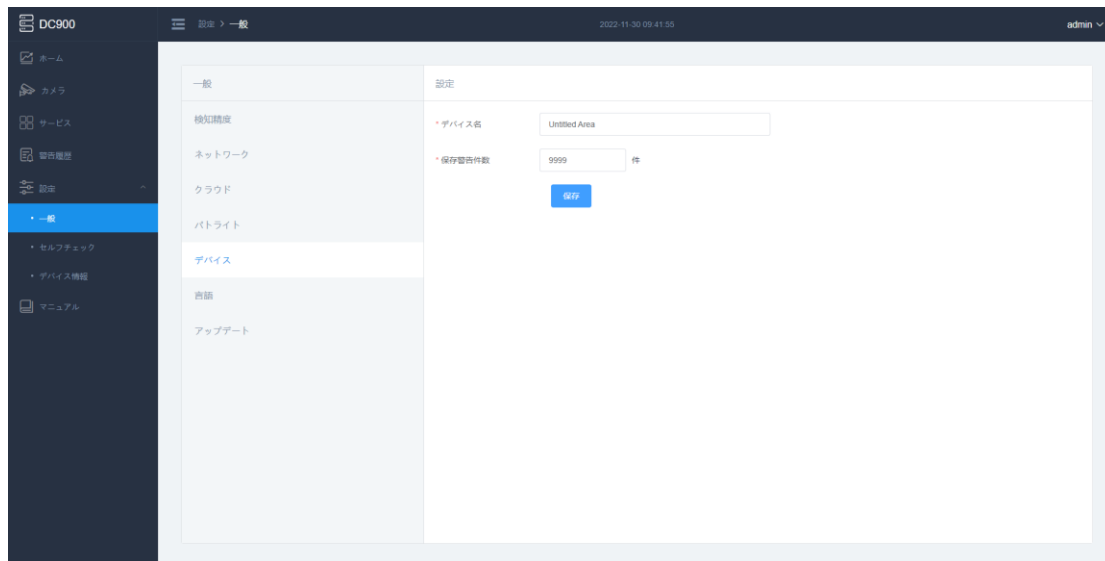


4.2.2 設定を監視します

監視設定は、端末装置のゾーン情報を構成するために使用します。

[設定 - 共通設定 - 監視構成] ページに移動し、監視領域の名前を入力します。

ユーザーは、実際の状況に応じて、監視ゾーン名のカスタム構成を行うことができます。

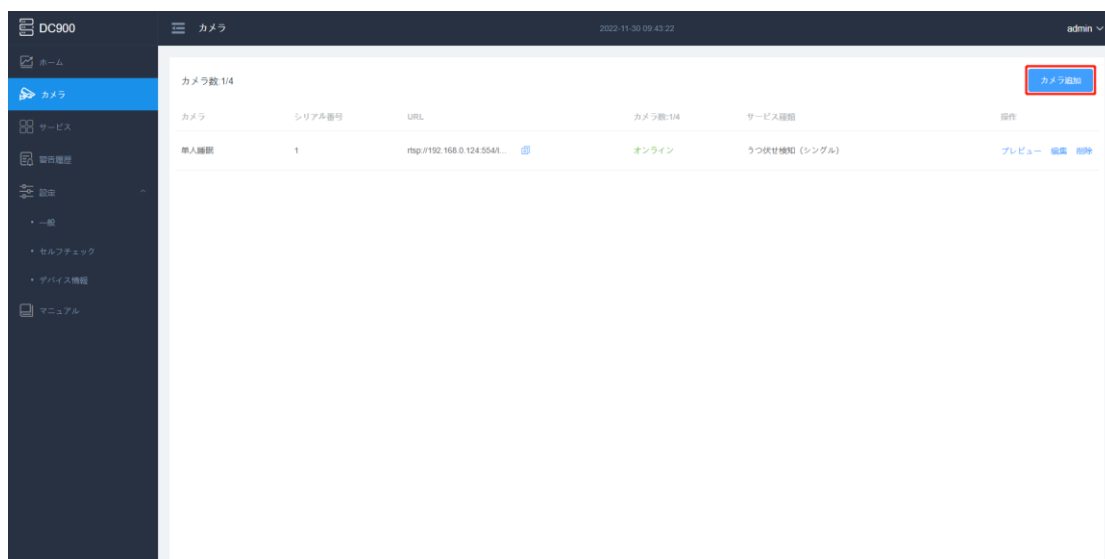


4.2.3 カメラ構成

カメラ構成は、構成アクセス デバイスのカメラ情報を接続するために使用します。

[デバイス管理] ページに移動し、[カメラの追加] をタップしてカメラ構成を操作します。

ターミナルには最大 4 台のカメラを設定できます。



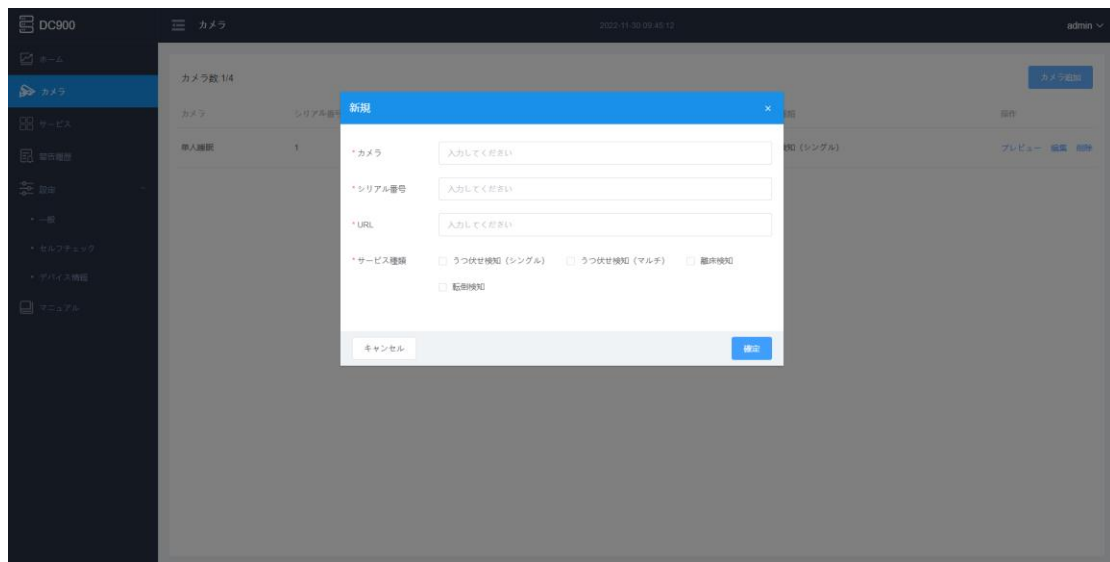
ユーザーは、カメラ名、ビデオ ストリーム アドレス、およびカメラ デバイス番号を入力し、カメラ情報に基づいて少なくとも 1 つの検出タイプをチェックする必要があります。

一般に、カメラ シーンと検出タイプの対応は次のとおりです

幼稚園ラウンジ： 複数人睡眠検知

病院/老人ホーム病棟のベッドサイド： シングル睡眠検知、ベッド離床検知

病院/老人ホームの部屋と廊下： 転倒検知。



4.2.4 プラットフォームの設定

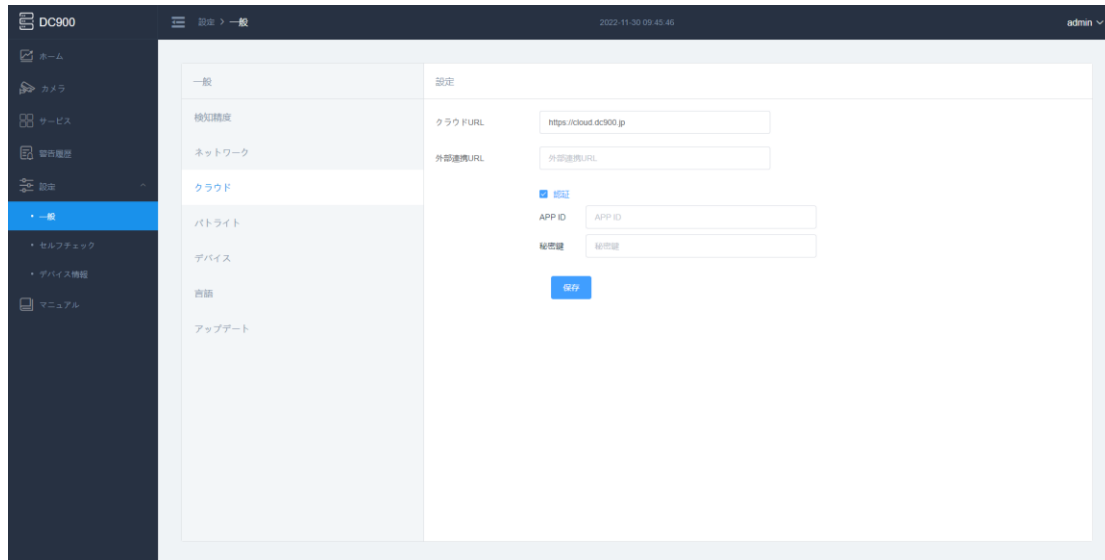
プラットフォーム設定は、端末ドッキングを構成するために使用されるデバイス プラットフォームとサービス プラットフォーム アドレスです。

[設定 - 共通設定 - プラットフォーム構成] ページに移動し、構成デバイスプラットフォームとサービス プラットフォーム アドレスを確認します。

デバイス制御プラットフォーム アドレスは、工場出荷時は (<https://cloud.dc900.jp>) に設定されています。通常は手動で変更する必要はありません。

サードパーティ サービス プラットフォーム アドレスは、ユーザーがサード

パーティ プラットフォームに接続するために使用します。サードパーティ サービス プラットフォーム アドレスを入力して、承認認証を有効にするかどうかを選択します。承認認証を有効にする場合には、サードパーティのサービス プラットフォームがプラットフォーム認証用に提供するアプリ ID とシークレットキーを入力する必要があります。

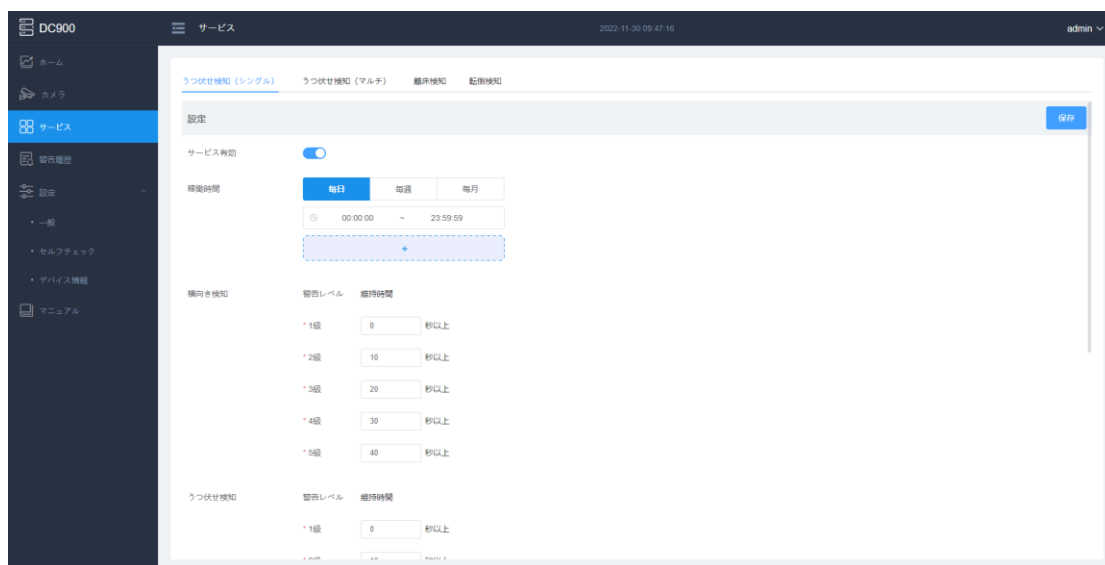


4.2.5 サービス構成

サービス構成は、エンド デバイスのサービス検出口ジックを構成するために使用されます。

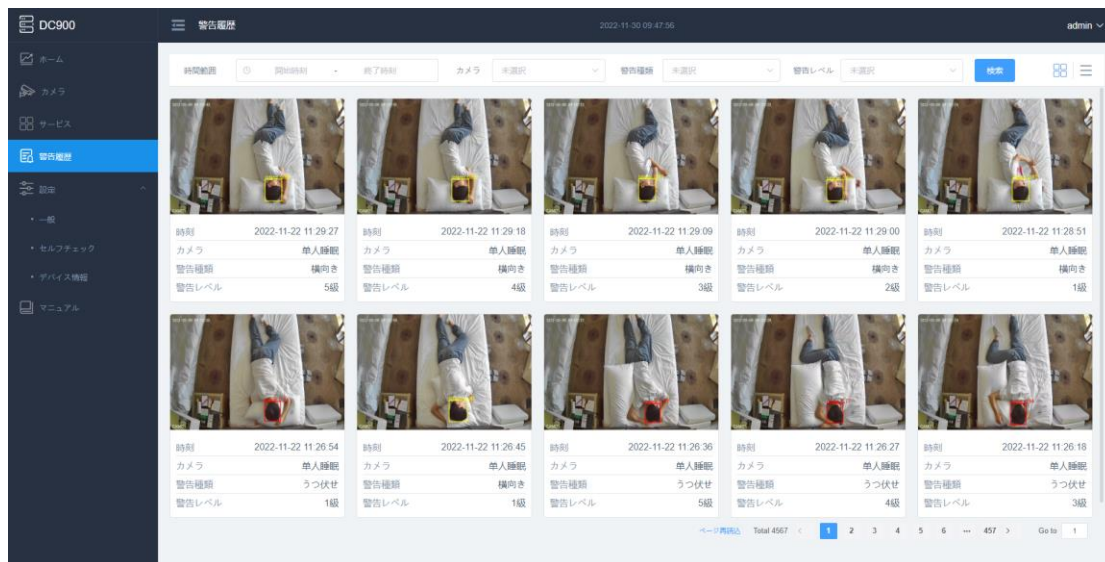
[サービス構成] ページに移動し、各サービス構成パラメーターを確認します。

具体的な構成パラメータについては、関連する章の説明を参照してください。



4.2.6 構成の検証

上記の構成とチェックが完了すると、ターミナル ソフトウェアは検出と記録を開始します。ユーザーは、アラート レコード ページとサービス プラットフォームで生成されたアラート レコードを個別にチェックし、構成情報を検証できます。

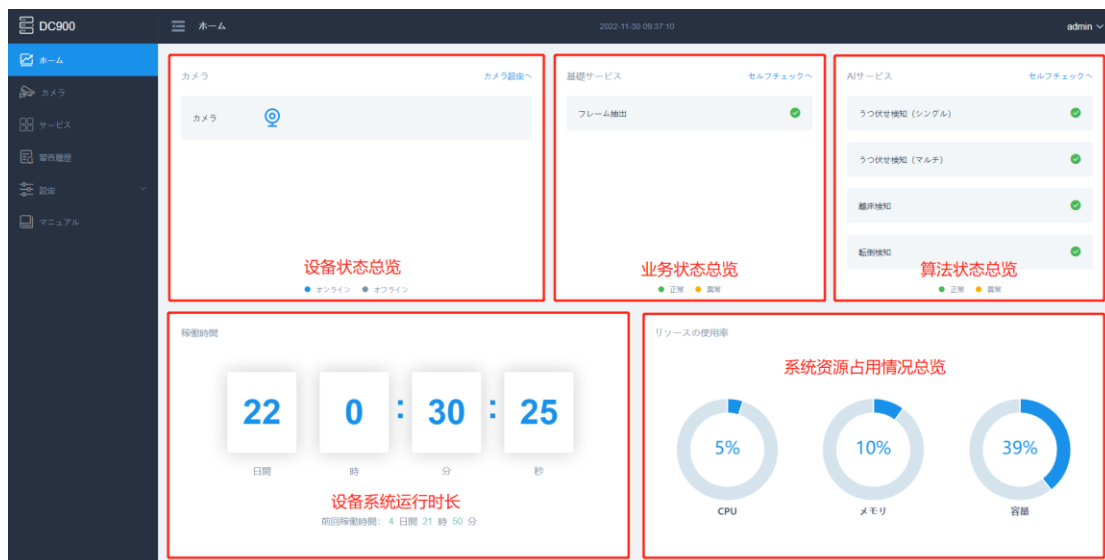
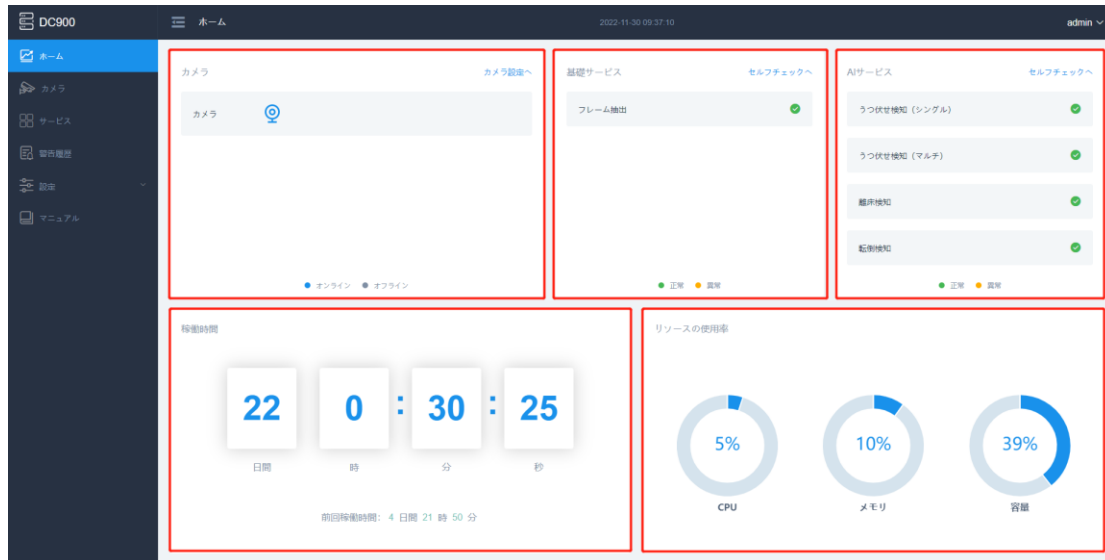


4.3 ホーム

ユーザーがサインインすると、既定ではソフトウェアのフロント ページが表示されます。

[ホーム] メニュー バーをクリックすると、フロント ページも表示されます。

ホーム ページには、デバイスのオンライン状態、サービス ステータス、アルゴリズムの状態、およびデバイスの実行時間とシステム リソースのフットプリントの概要など、端末の現在の概要情報が表示されます。



デバイス ステータスの概要には、アクセスされたカメラ アイコン、オンライン カメラを示す青いアイコン、オフライン カメラを示す灰色のアイコンが表示されます。

サービス ステータスの概要には、ターミナルのサービス サービス情報が表示され、緑色のアイコンは通常のサービスを識別し、オレンジ色のアイコンは異常

なサービスを識別します。

アルゴリズムステータス一覧には、端末のアルゴリズムサービス情報、緑色のアイコンが通常のアルゴリズムを識別し、オレンジ色のアイコンが異常アルゴリズムを識別します。

デバイス システムの実行時間は、システムが連続して実行され、最後に連続した実行が開始された場合のデータの長さを示します。

システム リソースフットプリントの概要では、ターミナル CPU、メモリ、およびストレージ スペースのフットプリントを示します。

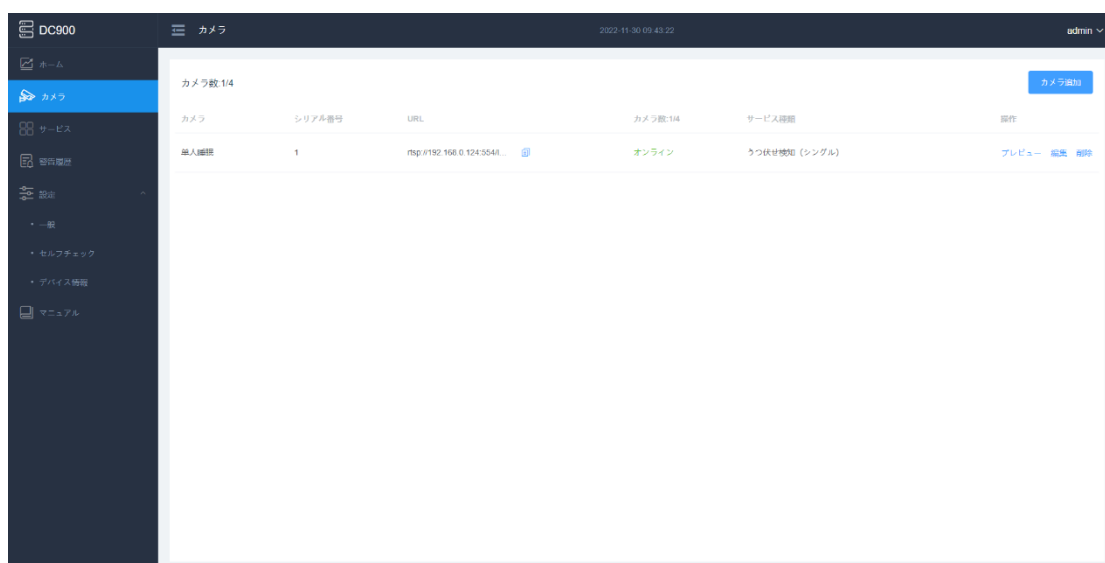
4.4 デバイス構成

デバイス構成は、アクセス 端末のデバイスを一元的に管理することです。

DC900 AI 端末は、カメラ管理機能を提供します。

[デバイス構成] メニュー バーをクリックして、カメラ管理ページに移動します。

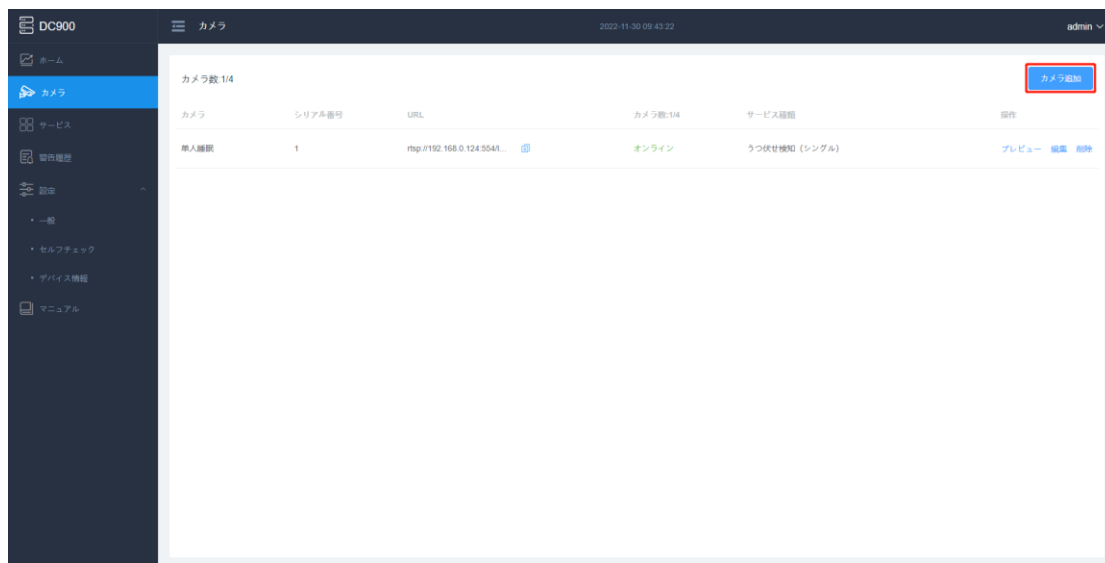
カメラ管理ページには、アクセスされた端末のカメラ情報がリスト形式で表示され、カメラの追加、編集、削除、およびカメラビデオプレビューの表示が可能になります。



4.4.1 カメラを追加します

[カメラ管理] ページで、[カメラの追加] をタップして、新しいカメラを追加します。

ターミナルは、最大 4 つのカメラで構成できます。端末が 4 つのカメラにアクセスするように構成されている場合、[カメラの追加] アクションはクリックできません。



カメラヘッドを追加するには、カメラヘッド名、ビデオストリームアドレス、およびカメラに入力する必要があります。ヘッドデバイス番号を作成し、カメラヘッド情報に基づいて少なくとも 1 つの検出タイプをチェックします。

一般に、カメラのシーンと検出タイプの対応は次のとおりです。

幼稚園ラウンジ：複数人睡眠検知

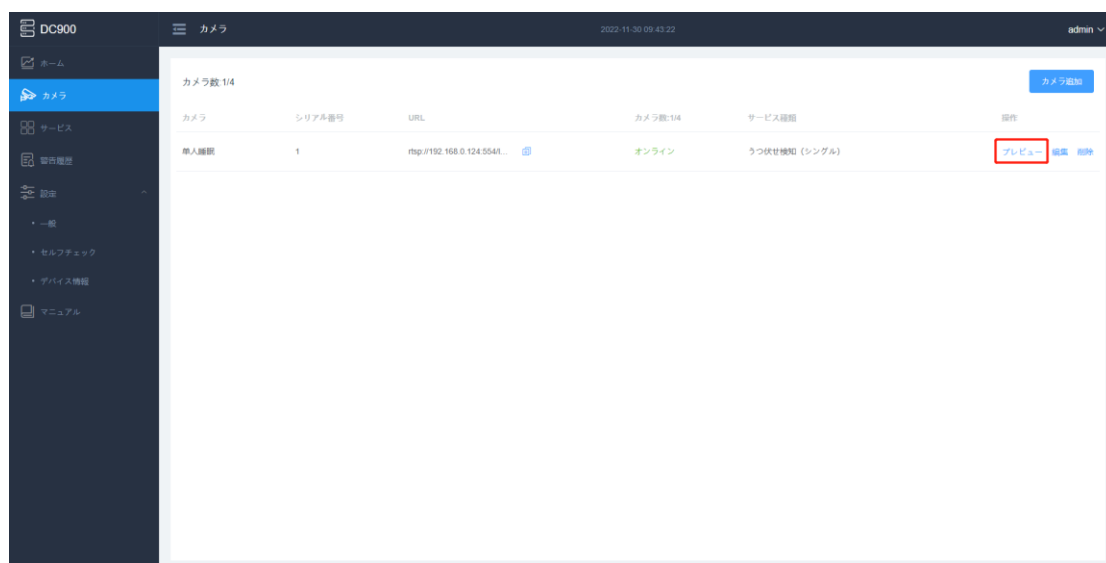
病院/老人ホーム病棟のベッドサイド：シングル睡眠検知、ベッド離床検知

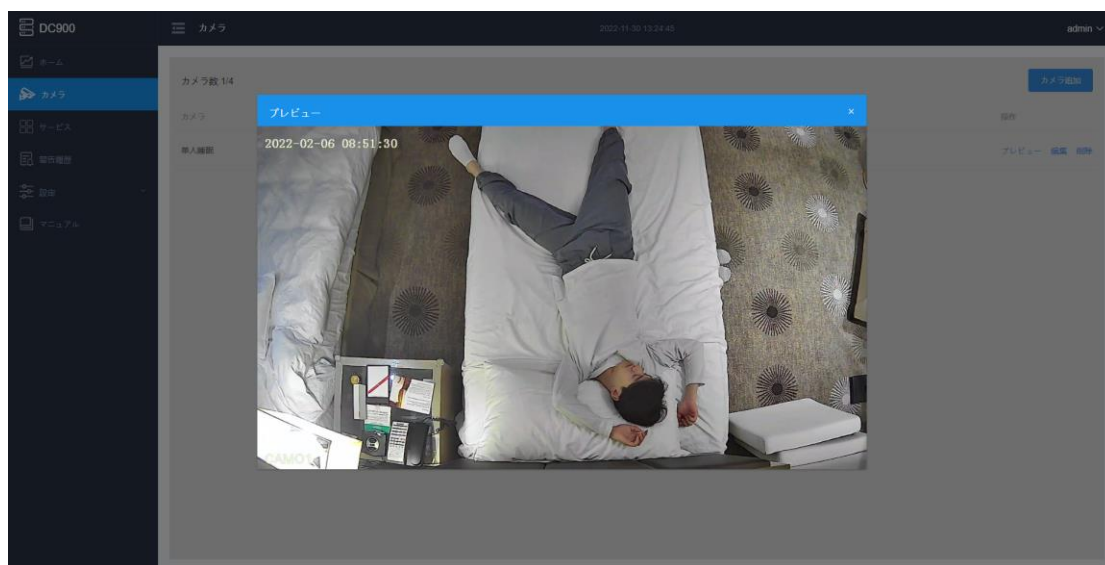
病院/老人ホームの部屋と廊下：転倒検知



4.4.2 カメラのビデオ画面のプレビュー

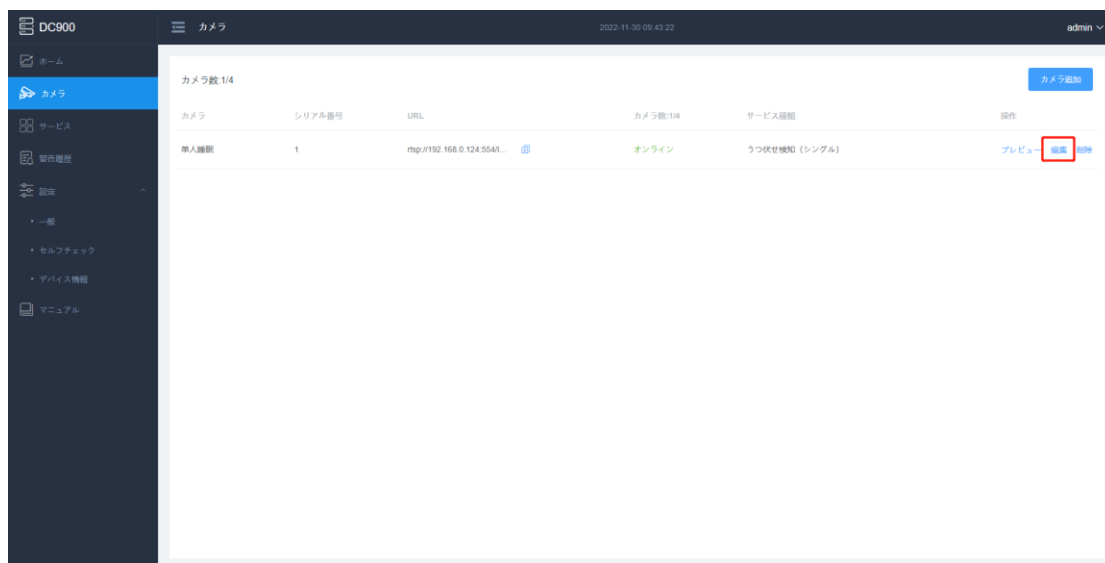
カメラ管理ページで、カメラを選択し、[プレビュー] をクリックすると、カメラビデオをリアルタイムでフレームし、フレームをプレビューできます。

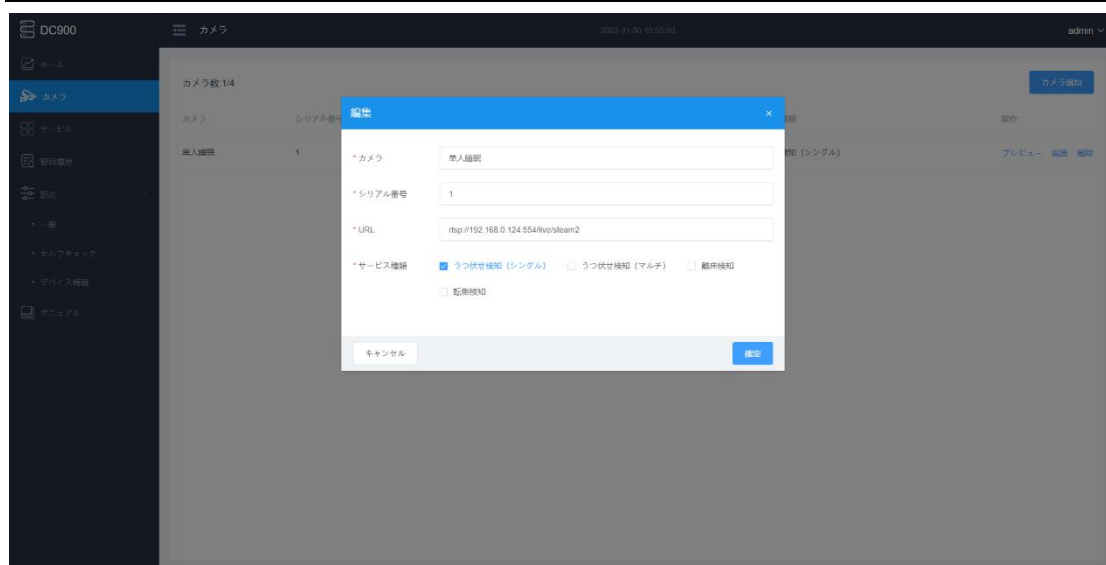




4.4.3 カメラ編集

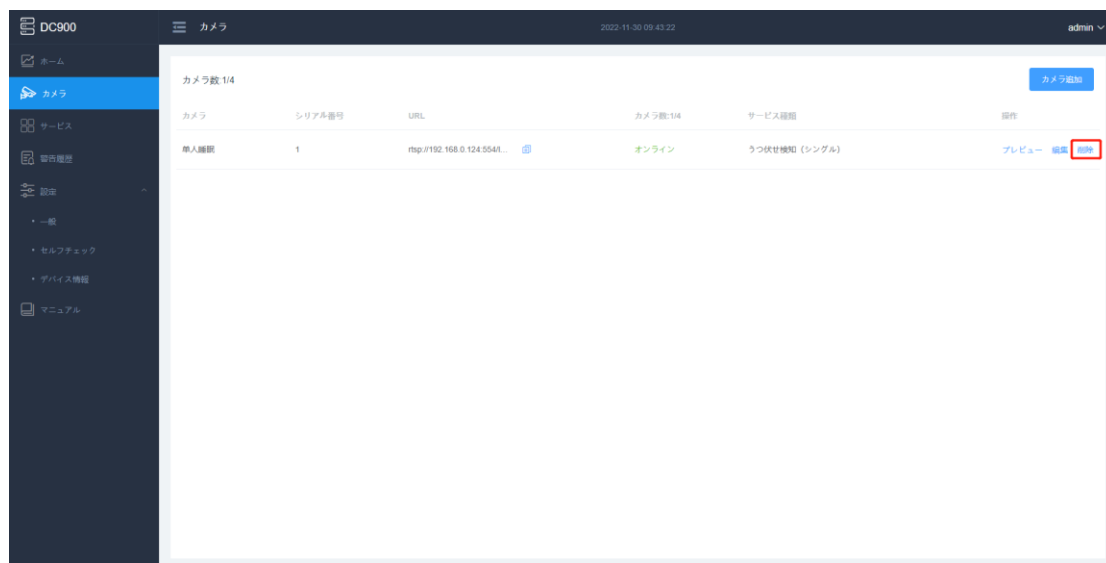
カメラ管理ページで、カメラを選択し、[編集] をタップして、変更したカメラ情報を編集します。



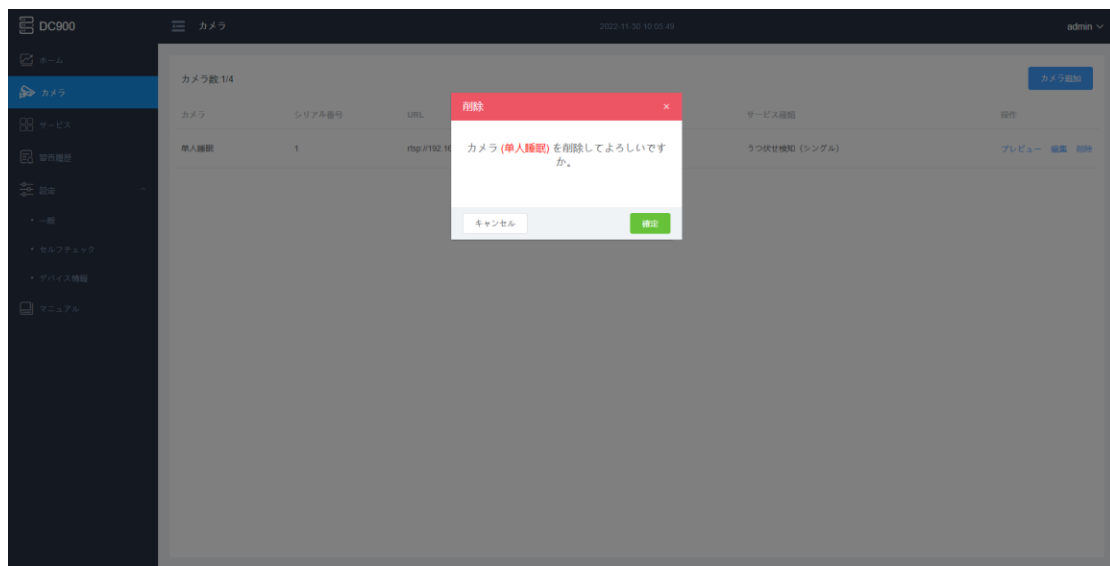


4.4.4 カメラの削除

[カメラ管理] ページで、カメラを選択し、[削除] をタップして、カメラ情報を削除します。



カメラを削除するには、再度確認されます。



4.5 サービス構成

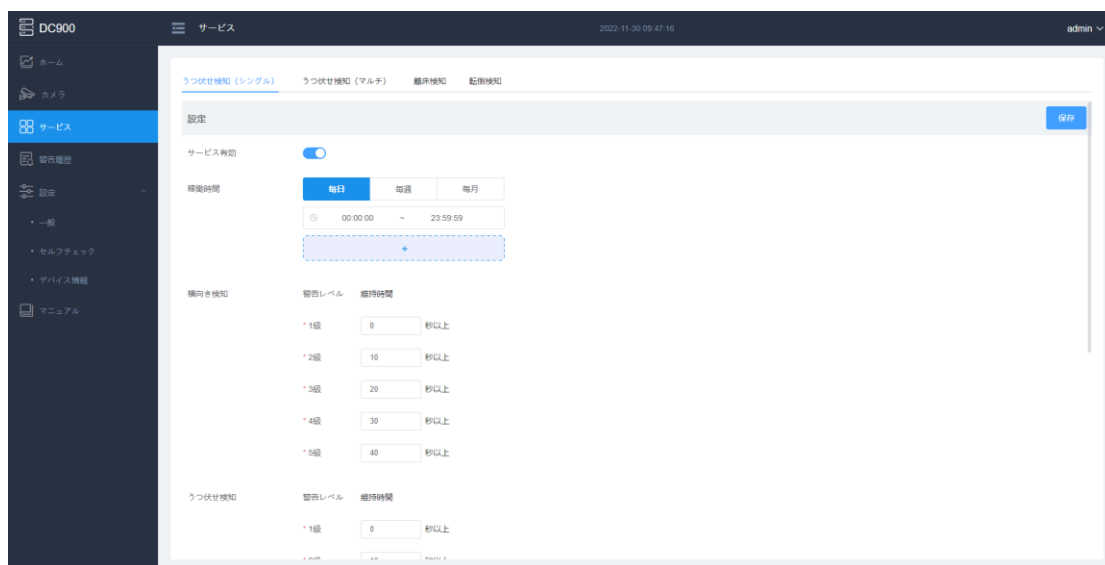
サービス構成は、エンド デバイスのサービス検出口ジックを統合管理です。

サービス管理管理モジュールは、各検査業務を一元的に管理し、サービス検査パラメータを構成することができます。

DC900 は、一人安全睡眠検知、複数人安全睡眠検知、ベッド離床検知、転倒検知の 4 つのサービス検知機能を提供します。

4.5.1 シングルプレイヤー安全睡眠検出

[一人安全睡眠検知] タブで [サービス構成] メニュー バーをクリックして、一人安全睡眠検知サービス管理タブに移動します。



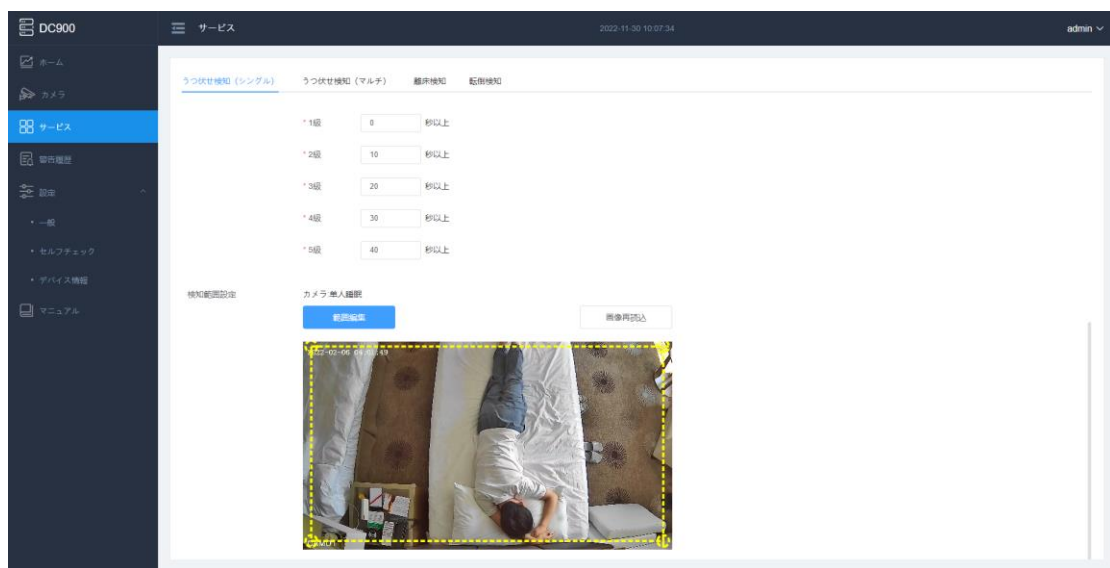
サービスイネーブルステータス:現在のサービスイネーブルステータス、サービスが有効になっていない場合、サービスアルゴリズムの検出は行われず、対応するアラームレコードも生成されません。

サービスイネーブルステータスは手動で変更することも、タイミングに応じて構成を有効にすることで、システムは自動的にサービス開始と停止を行うことができます。

定期的な有効化は、サービス開始時刻からサービス停止時間まで、日単位/週単位/月単位の固定時間でサービス開始と停止を構成できます。

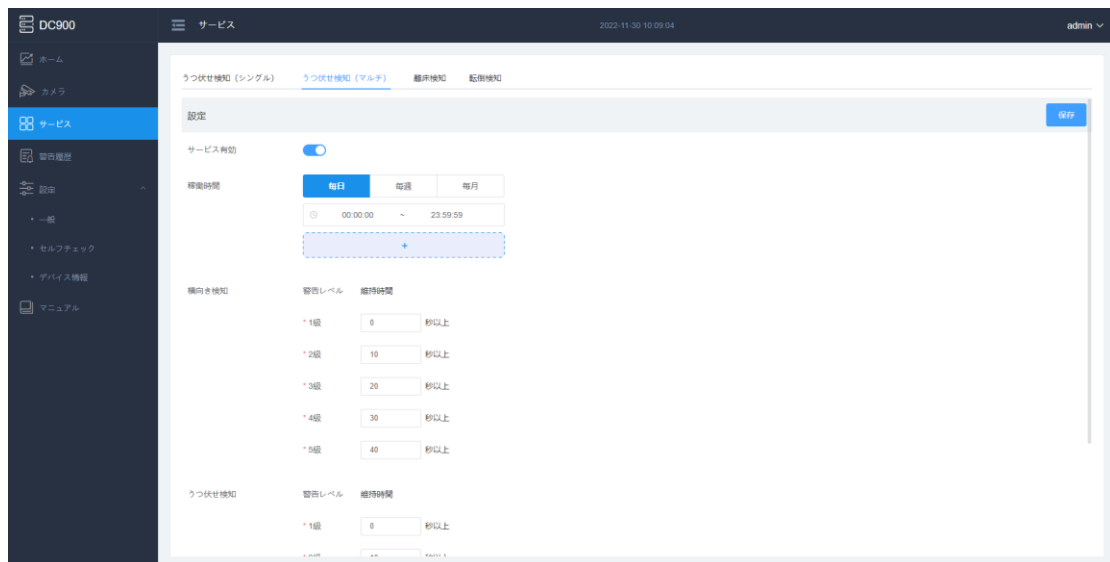
横たわる/横たわる警報構成: 警報条件のカスタマイズされた構成は睡眠位置の動きに従って持続し、1 から 5 段階の警報条件をカスタマイズし、1 段階は最低であり、5 段階は最高である。持続時間は、10 秒の整数倍に設定することをお勧めします。

認識ロケール: AI 認識領域のカスタム構成、新規/編集選択領域選択は領域選択ボックスをドラッグし、画像を更新するとカメラ ビデオ スクリーン ショットを更新できます。一人安全睡眠検知用に複数のカメラを構成する場合は、カメラごとに認識領域を個別に構成する必要があります。



4.5.2 複数人安全睡眠検知

[サービス構成] メニュー バーと [マルチプレイヤー セーフ スリープ検出] タブをクリックして、マルチプレイヤー セーフ スリープ検出サービス管理タブに移動します。



サービスイネーブルステータス:現在のサービスイネーブルステータス、サービスが有効になっていない場合、サービスアルゴリズムの検出は行われず、対応するアラームレコードも生成されません。

サービスイネーブルステータスは手動で変更することも、タイミングに応じ

て構成を有効にすることで、システムは自動的にサービス開始と停止を行うことができます。

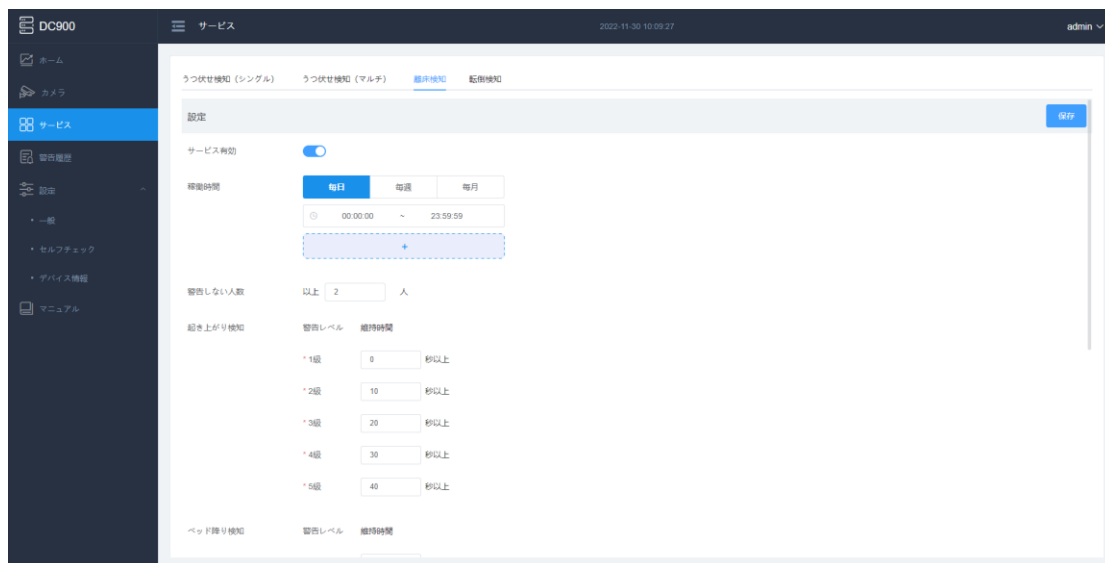
定期的な有効化は、サービス開始時刻からサービス停止時間まで、日単位/週単位/月単位の固定時間でサービス開始と停止を構成できます。

横たわる/横たわる警報構成: 警報条件のカスタマイズされた構成は睡眠位置の動きに従って持続し、1 から 5 段階の警報条件をカスタマイズし、1 段階は最低であり、5 段階は最高である。持続時間は、10 秒の整数倍に設定することをお勧めします。

認識ロケール: AI 認識領域のカスタム構成、新規/編集選択領域選択は領域選択ボックスをドラッグし、画像を更新するとカメラ ビデオ スクリーン ショットを更新できます。複数のカメラで複数人安全睡眠検知を構成する場合は、カメラごとに認識領域を個別に構成する必要があります。

4.5.3 ベッドから検出します

[サービス構成] メニュー バーと [ベッドオフ検出] タブをクリックして、ベッドオフ検出サービス管理タブに移動します。



サービスイネーブルステータス:現在のサービスイネーブルステータス、サービスが有効になっていない場合、サービスアルゴリズムの検出は行われず、対応

するアラームレコードも生成されません。

サービスイネーブルステータスは手動で変更することも、タイミングに応じて構成を有効にすることで、システムは自動的にサービス開始と停止を行うことができます。

定期的な有効化は、サービス開始時刻からサービス停止時間まで、日単位/週単位/月単位の固定時間でサービス開始と停止を構成できます。

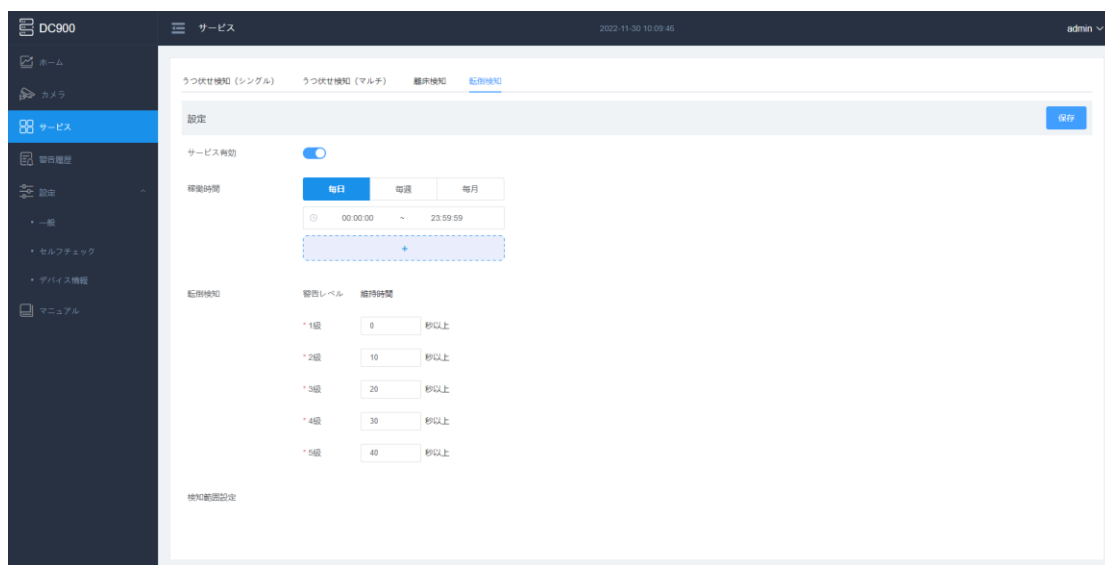
アラーム数なし: カスタム構成では、アラームの数は必要ありません。AI が映像で屋内の人数が配置人数より多いことが検出された場合、部屋に介護者がいると判断し、アラームを発する必要はありません。

ベッドは、ベッド/ベッドから離れている/ベッドからアラーム構成を出発しています: カスタム構成アラーム条件は、ベッドの人員の動きに応じて持続することができ、カスタム構成レベル 1~5 アラーム条件、レベル 1 は最低、レベル 5 は最高です。持続時間は、10 秒の整数倍に設定することをお勧めします。

認識ロケール: AI 認識領域のカスタム構成、新規/編集選択領域選択は領域選択ボックスをドラッグし、画像を更新するとカメラ ビデオ スクリーン ショットを更新できます。ベッドから離れた検出用に複数のカメラを構成する場合は、カメラごとに認識領域を個別に構成する必要があります。

4.5.4 転倒検出

「サービス構成」メニュー・バーと「転倒検出」タブをクリックして、転倒検出サービス管理タブに移動します。



サービスイネーブルステータス:現在のサービスイネーブルステータス、サービスが有効になっていない場合、サービスアルゴリズムの検出は行われず、対応するアラームレコードも生成されません。

サービスイネーブルステータスは手動で変更することも、タイミングに応じて構成を有効にすることで、システムは自動的にサービス開始と停止を行うことができます。

定期的な有効化は、サービス開始時刻からサービス停止時間まで、日単位/週単位/月単位の固定時間でサービス開始と停止を構成できます。

落下アラーム構成:カスタム構成アラーム条件は、人員の落下時間に応じて、カスタム構成レベル 1~5 アラーム条件、レベル 1 が最小、レベル 5 が最高です。持続時間は、10 秒の整数倍に設定することをお勧めします。

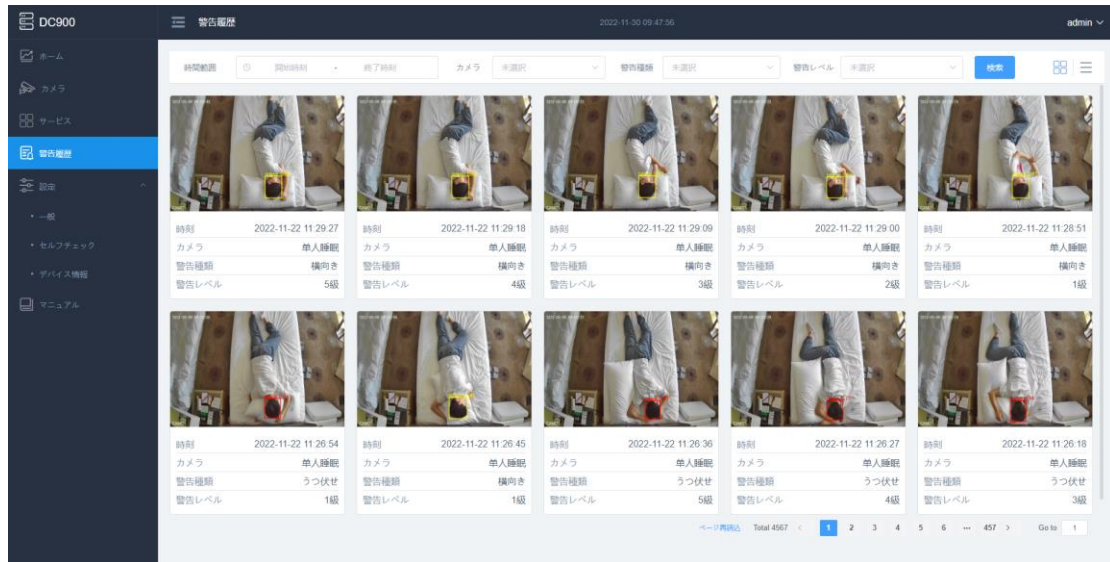
認識ロケール: AI 認識領域のカスタム構成、新規/編集選択領域選択は領域選択ボックスをドラッグし、画像を更新するとカメラ ビデオ スクリーン ショットを更新できます。転倒検出を構成するカメラが複数ある場合は、カメラごとに認識領域を個別に設定する必要があります。

4.6 警報ログのレポートする

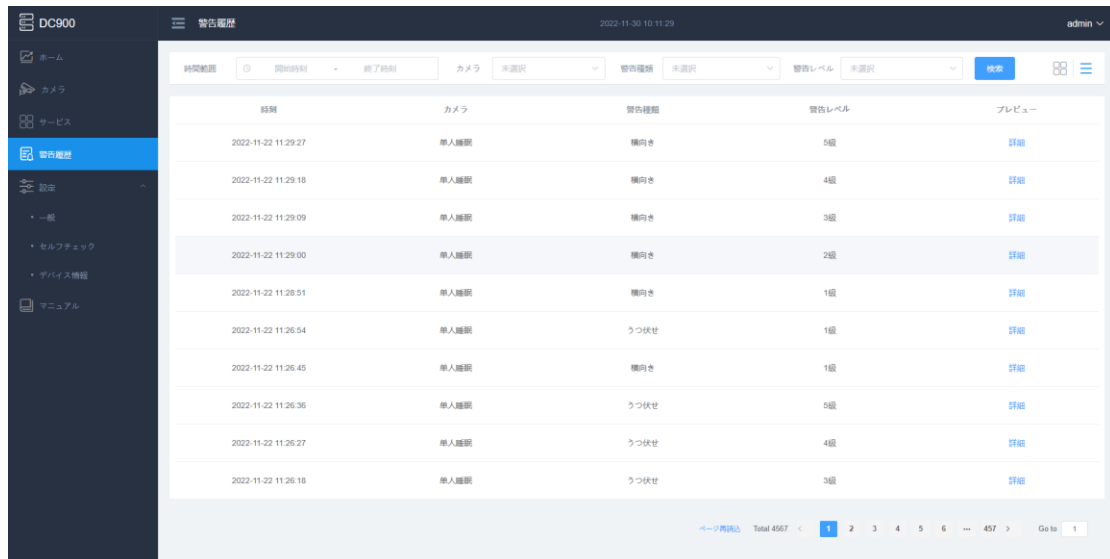
生成されたアラート レコードを検出し、サービス プラットフォームにエスカ

レートすると、エンドポイントでローカルに同期して保存され、アラート レコード ページに表示されます。

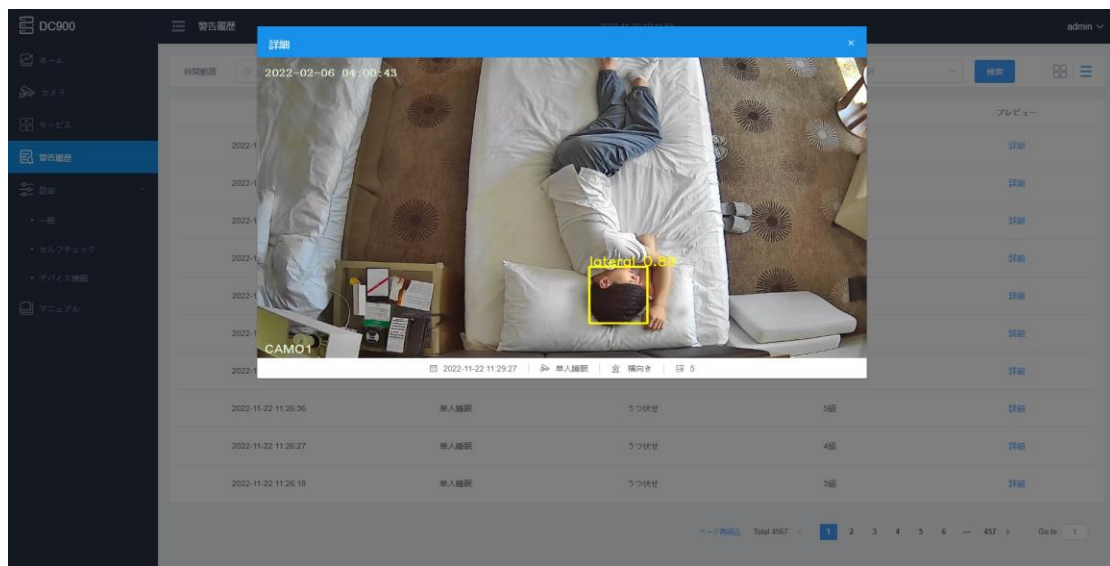
ユーザーは、時間枠、カメラ、アラームイベント、アラームレベルの 4 つの条件に基づいてフィルタリングすることができます。



警報のログは、サムネイルとリストの両方として表示することができ、ページの右上隅にあるアイコンをタップして切り替えることができます。



アラームレコードリストでは、クリックしてアラームレコードの詳細を表示できます。



4.7 設定します

設定には、端末の共通設定、端末構成の検出、およびネイティブに関する 3 つのモジュールが含まれます。

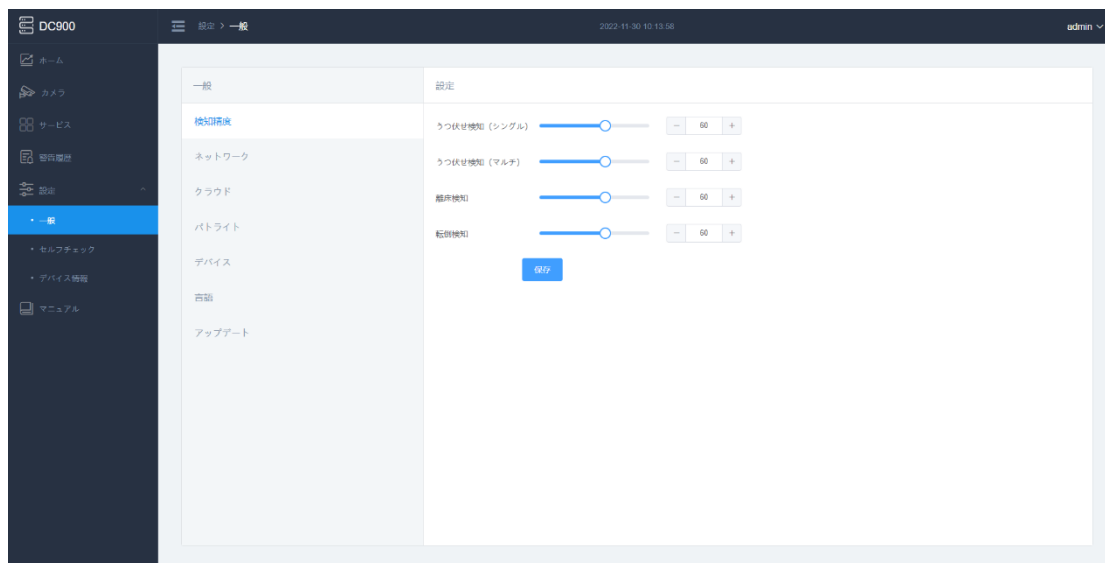
4.7.1 一般的な設定

共通設定は、端末の共通構成項目です。

アルゴリズム感度の設定

アルゴリズム感度構成は、サービス検出の精度を向上させるために、各サービス アルゴリズムの感度を構成するために使用されます。

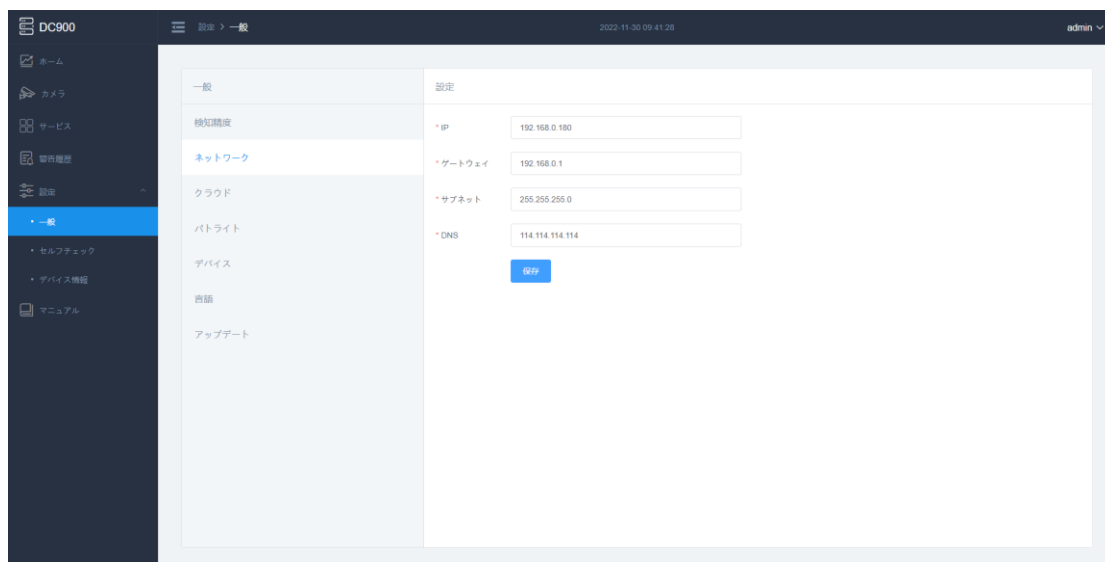
アルゴリズムの感度が高いほど、認識結果は信頼性が高くなりますが、リーク認識率が増加します。アルゴリズムの感度が低いほど、検出率は高くなりますが、誤認識率が増加します。



ネットワーク構成

ネットワーク プロビジョニングは、ネイティブ IP、ゲートウェイ、サブネットマスク、および DNS サーバーを設定できる端末ネイティブ ネットワークを構成するために使用されます。

※ネットワーク構成を変更すると、デバイスは自動的に再起動します。再起動後は設定した IP アドレスを使用してアクセスします。

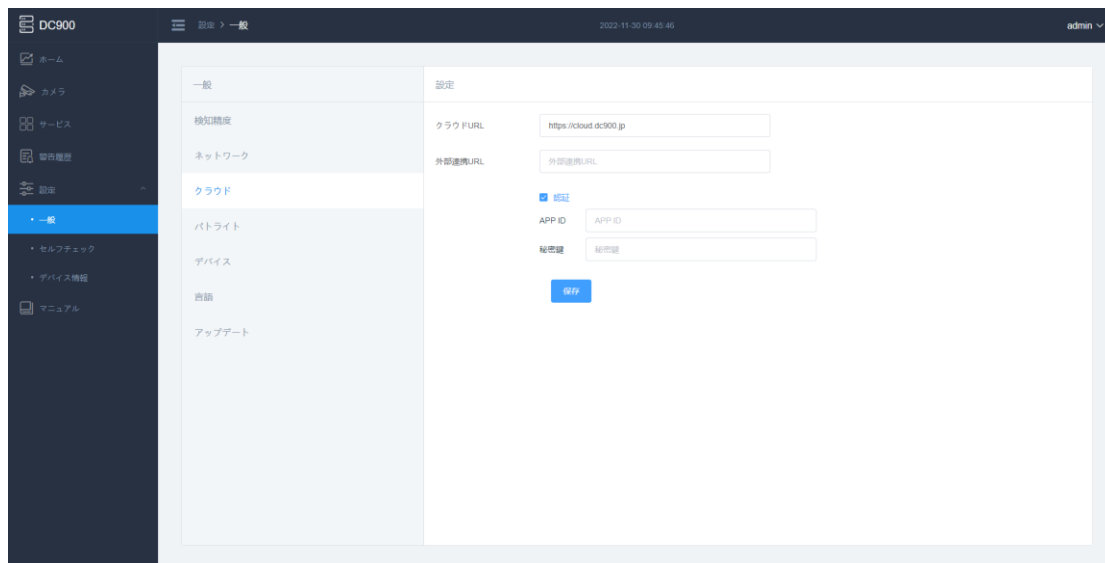


プラットフォーム構成

プラットフォーム設定は、端末ドッキングを構成するために使用されるデバイス プラットフォームとサービス プラットフォーム アドレスです。

デバイス制御プラットフォームは、ターミナル ドッキングのスマート デバイス管理プラットフォーム (<https://cloud.dc900.jp>) です。

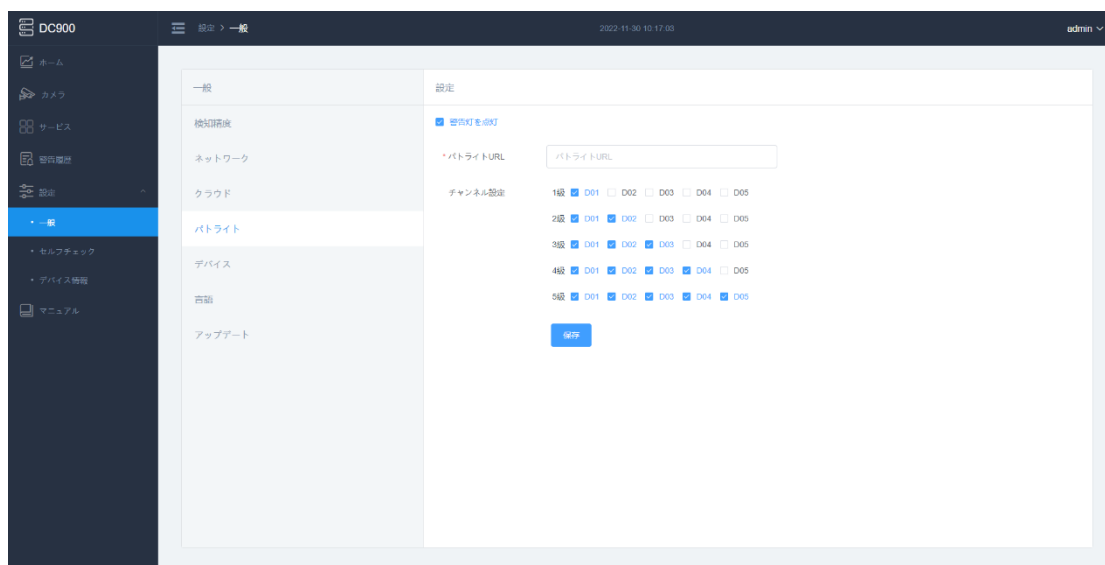
サード パーティ サービス プラットフォーム アドレスは、ユーザーがサードパーティ プラットフォームに接続するために使用します。サード パーティ サービス プラットフォーム アドレスを入力して、承認認証を有効にするかどうかを選択します。承認認証を有効にする場合には、サードパーティのサービス プラットフォームがプラットフォーム認証用に提供するアプリ ID とシークレットキーを入力する必要があります。



警告灯構成

警告灯は、端末接続を構成するための警告灯として構成されます。

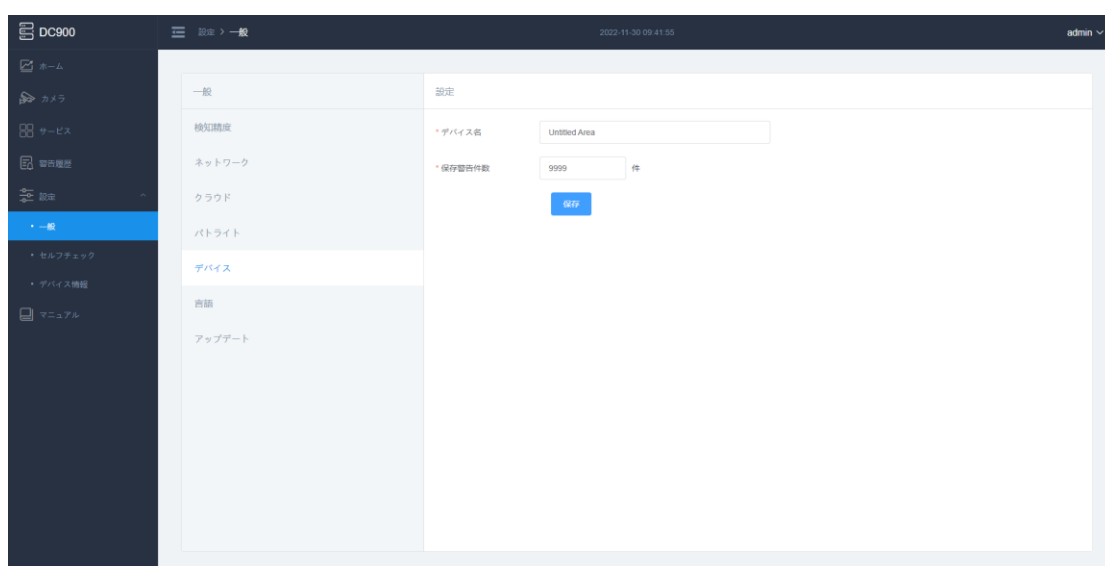
警告灯をオンにするには、ネットワークケーブルを介して警告灯を接続し、警告灯のネットワーク IP アドレス情報を設定し、アラームランプチャンネルを異なるレベルごとに設定する必要があります。



設定を監視します

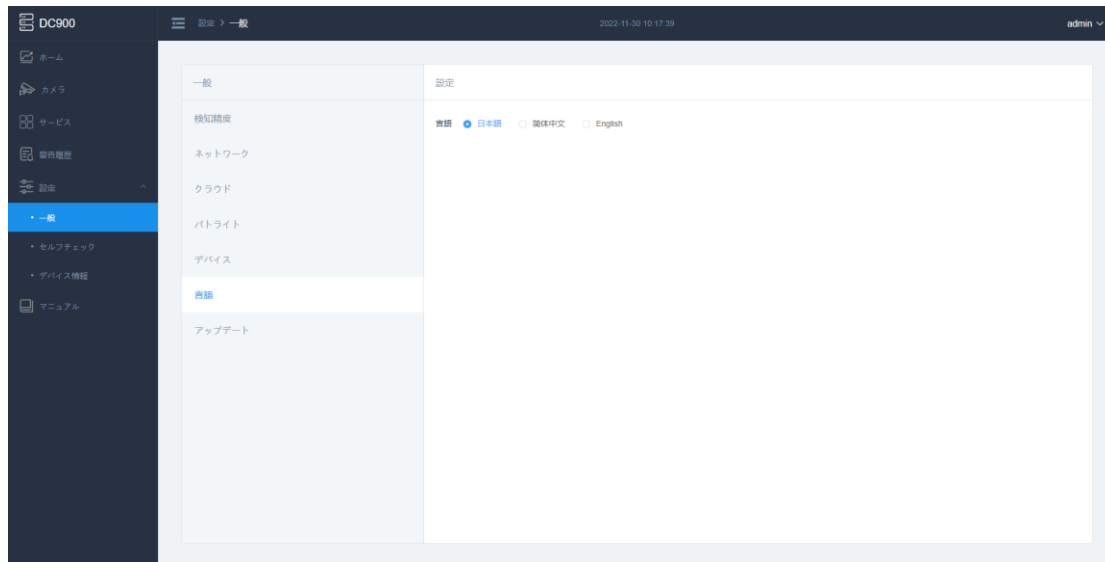
監視設定は、端末装置が所在する監視エリア情報とアラーム記録ストレージの量を構成するために使用されます。

ユーザーは、実際の状況に応じて、監視ゾーン名と格納する必要があるアラーム情報の数をカスタマイズできます。システムに保存されているアラーム情報の数が構成数に達すると、古いアラームレコードが自動的にクリーンアップされます。



言語構成

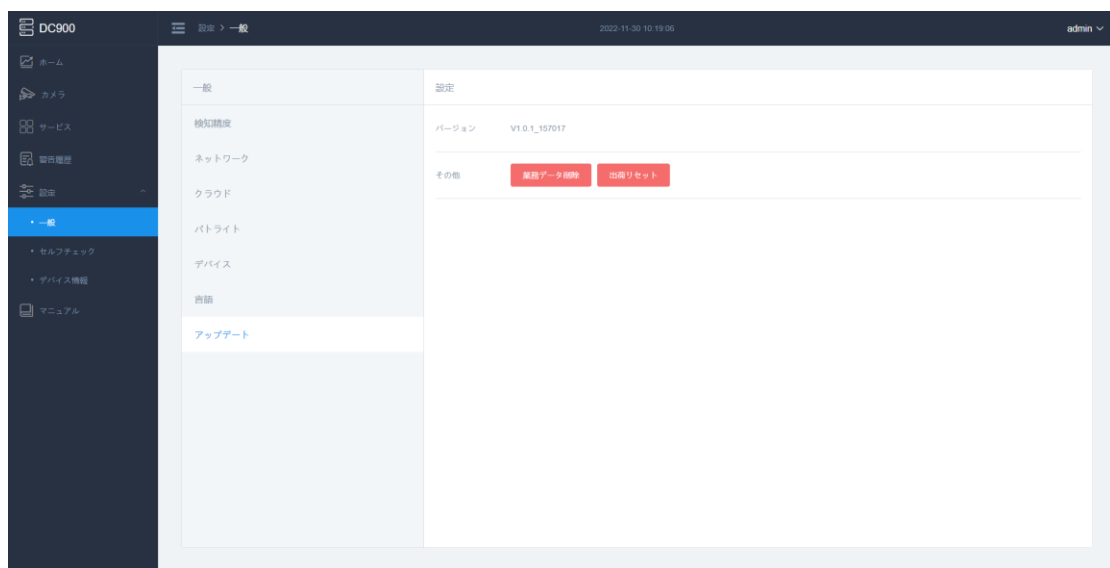
言語構成はシステム言語で構成でき、現在は日本語、簡体字中国語、英語の3つの言語で利用できます。



システム情報

システム情報は、ターミナル ソフトウェアのバージョン番号を表示し、サービス データの消去と工場出荷時への設定が行えます。

サービス データの消去は、すべてのアラーム レコード データを消去します。工場出荷時の設定に戻ると、ターミナルの工場出荷時のデフォルトのサービス構成が復元されます。



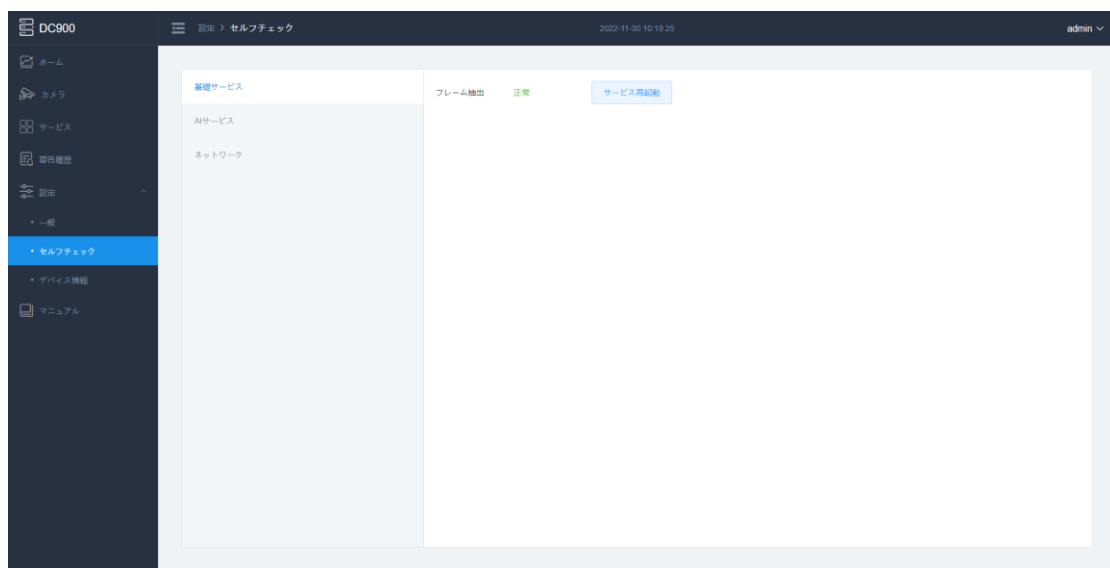
4.7.2 インストルメンテーションを構成します

構成検出は、端末構成の動作状態検出であり、一般に端末の検出とトラブルシューティングに使用されます。

ローカル サービスの検出

ローカル サービス検出は、エンド サービスの動作状態を検出し、サービスサービスを再起動するために使用できます。

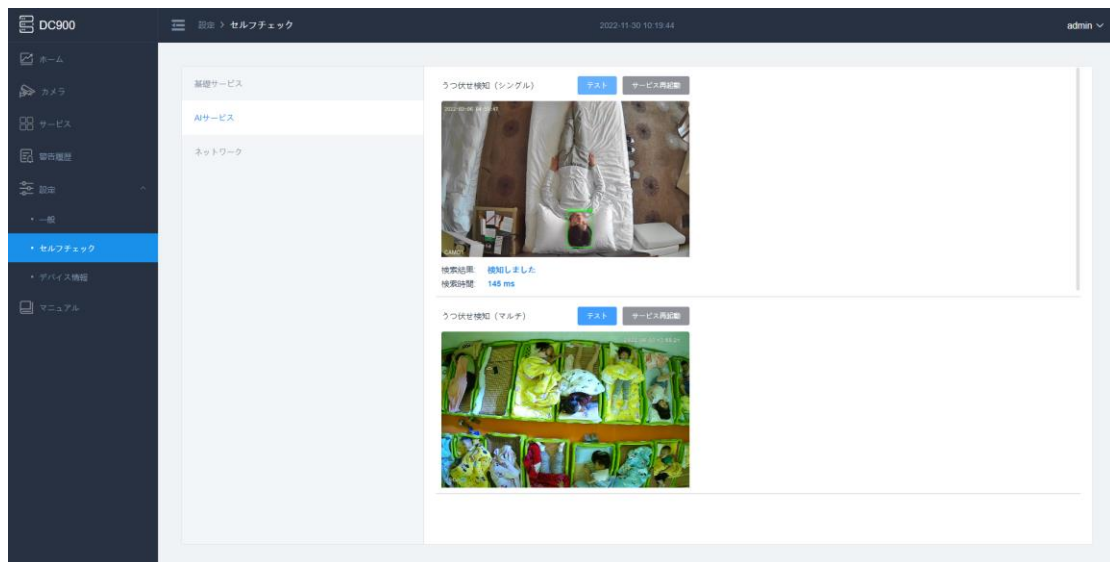
DC900 は、フレーム抽出サービス検出機能を提供します。



アルゴリズムの状態検出

アルゴリズム状態検出は、アルゴリズムの実行状態を検出し、アルゴリズムサービスを再起動するために使用できます。

DC900 は、一人安全睡眠検知、複数人安全睡眠検知、ベッド離床検知、転倒検知の 4 つのアルゴリズムを提供します。

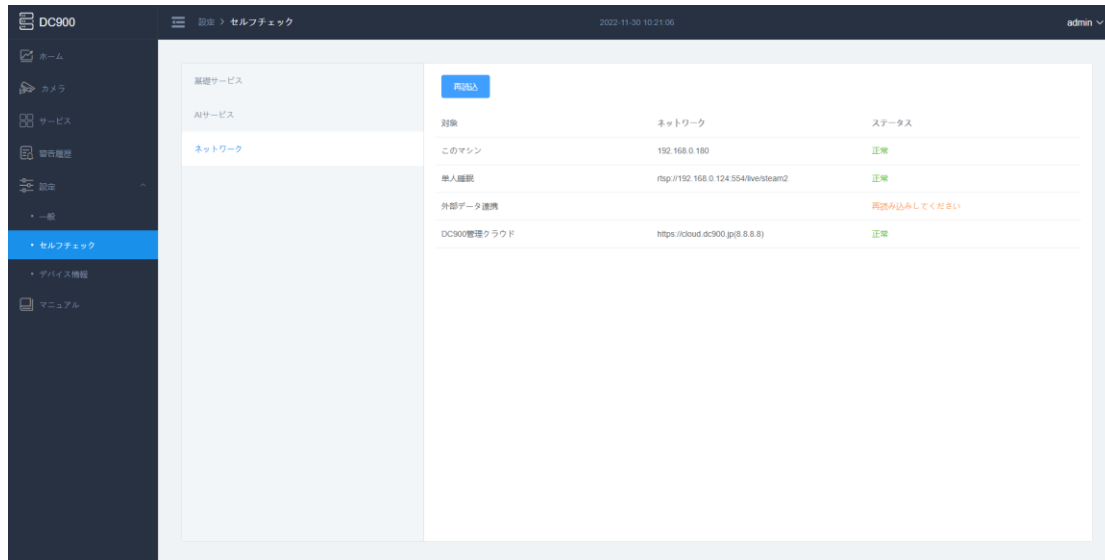


ネットワーク検出

ネットワーク検出は、エンド ネットワークに接続するデバイスの状態検出に

使用できます。

DC900 AI 端末は、ネイティブネットワーク構成、アクセスカメラデバイス、エンドデバイス制御プラットフォーム、三国間サービスプラットフォームサーバー状態検出を提供します。



4.7.3 ネイティブについて

ネイティブディスプレイ端末装置に関する情報には、デバイス番号、MAC アドレス、エンドデバイスモデルとソフトウェアシステムバージョン、カメラ接続数の上限、ローカルアルゴリズム機能、が含まれます。ネイティブの QR コードなど また、デバイスの再起動操作も可能です。

ネイティブ QR コードは、製品付属の Android 側 APP スキャン コード追加デバイスで使用できます。

DC900 設定 > デバイス情報 2022-11-30 10:21:23 admin

ホーム
カメラ
サービス
録画設定
設定
・一般
・セムチェック
・デバイス情報
マニュアル

デバイス番号 WD01032108010309


MACアドレス d2:bc:4e:00:00:00

バージョン V1.0.1_157017

型番 COZO_803

最大カメラ接続数 4

実装アルゴリズム シングルモード マルチモード 転倒検知 離床検知

QRコード 

デバイス再起動